



# 水大学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 就任のご挨拶と学校の近況報告

校長 山元 憲一



昨年11月、教員の推薦により校長に就任して、早くも半年が経過いたしました。この間、本校の将来を見据えて、学生の教育・研究および卒業後の活躍がより多いものになることを念頭に日々努めています。

7月1日からは、改組した学生部体制がスタートいたしました。

従来の「学生課」と「教務課」に加えて「学生支援課」を増設し、その中で、「学生課」を学生生活における種々の問題を解決し、もちろん寮生活に関することも改善してゆくための専属の部署に特化させております。また、学生課に「就職統括役」を、教務課に「入試統括役」を設置して、学生募集と就職活動の支援を強化充実させる内容としております。これらの組織を円滑に機能させ、学生生活・教育の全般にわたる学生への支援を充実したものにしておくために、学生部のことに最も習熟した前田学生部長に留任をお願いし、取り組んでいるところです。

2月には、5年に一度受けることになっている外部評価の一つである大学評価・学位授与機構による本科および研究科の教育体制の審査結果を受け取りました。約8ヶ月かけて行われた、本科および研究科のカリキュラムおよび各科目を担当している教員の資質の審査結果を受けたわけです。結果は、本科では大学教育を進める上で、研究科では修士相当の大学院教育を進める上で、十分な体制を備えている

との判定結果でした。しかし、このような結果に甘えることなく、5年後の審査に向けて更に充実した教育・研究を推進してゆくことにいたしております。

5月には、本科で行っている教育の方法および内容について、昨年11月に受けたJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査結果を受け取りました。JABEEの審査は、「国際的に通用する大学教育を行っているか」という判定です。結果は、5学科のいずれも合格という判定を受け取りました。このように、学校全体が国際的に通用する大学教育を行っているとの判定を受けた例は、我が国では始めてではないかと自負しているところです。早速、本校の卒業証書に加えてJABEE教育を受けたことを証明する証書を作成し、この証明書を昨年度の3月に卒業した学生の各人に配布する作業に取りかかっているとあります。同時に、3年後に行われる中間審査に向けて、更なる教育内容および教育体制の充実・向上に向けて取り組んでいるところです。

一方、これからは、来年度で独立行政法人としての2期目が終了し、3期目を迎えることとなります。今年度中には、3期目に向けて、教育体制も見直すことも含めて2期目よりも更に充実した目標を立て、これに取り組む予定で、現在、作業に取り組んでいるところです。

今後とも、全国の高校生に水産大学校のすばらしさを認知していただき、受験していただくと同時に、入学後は教育・研究におおいに取り組み、充実した学生生活を送り、社会に羽ばたいて行くようにと願っております。一方、本校の諸施設は、昨年完成した講義棟はじめ種々の実験・実習棟、練習船、これらに加えて海洋機械工学科の実験棟の今年度完成予定を控え、充実したものとなっております。これらの諸施設を十二分に活用して、教育に、学生支援にと充実した体制を整えてゆくように努めてゆく所存です。皆様の、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 最近の話題

### ご挨拶

耕洋丸船長 團野 貞明

本年4月1日付けで耕洋丸船長を拝命しました團野貞明です。

昭和52年に専攻科を卒業して以来、練習船業務とは縁遠い世界で、主に調査船乗組員として、調査船の運航と調査業務に携わって参りました。

着任早々、生物生産学科3年生と水産流通経営学科2年生を乗船させ、東シナ海での実習航海を無事終えたところですが、練習船業務の何たるかは、いまだ把握出来ない状況で、これから、かなりの努力が必要であることを痛感しています。

私が所属していた水産総合研究センターには、全国に9つの水産に関する研究所があり、そのうちの8つの研究所には、大小9隻の漁業調査船が、調査の目的や内容、調査海域の特徴に合わせて配備され



ています。

これら9隻の漁業調査船が、それぞれ、水産資源の評価調査や、気候変動に関するモニタリング等を実施することにより、水産研究開発にとって、重要な役割を果たしています。

そのほか、さけますセンター、開発調査センター、栽培漁業センターでは、そ

れぞれ、さけます類のふ化・放流、海洋水産資源の開発利用のための調査、栽培漁業の技術開発等に積極的に取り組んでいます。

学生の皆さんで、調査船、施設の見学等、興味のある方は、各々の研究所の業務推進部が対応してくれるはずです。

是非チャレンジしてみてください。

水産研究の生の現場を実際に見聞することは、皆さんにとって、必ず将来の糧となるでしょう。

さて、私は、冒頭、卒業して以来、調査船の運航と調査業務に携わってきた、と記しましたが、現在に至るまでに、その3分の1もの間、陸上勤務を経験しています。

当然、その分、海上経験が浅くなったことは、仕方のないことですが、反面、多くの人と出会い、人を思いやる気持ちや、気配りの精神を、多少なりとも養うことができたこと、この貴重な経験に感謝しています。

船の安全運航の基本は、この思いやりと、気配りの精神だと思います。

「操縦容易な船舶が、操縦困難な船舶の針路を避けること」、「右側通行厳守」という海上衝突予防の原則と相通じるものがあります。

この2つの精神のもと、実習・調査・研究開発のため、最新鋭の練習船「耕洋丸」の能力を十分に引き出し、安全運航に、また、将来の水産研究開発を担う人材を育む礎となるよう、努めて参りたいと思います。

諸先輩の皆様方には、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

水産流通経営学科 助教 山本直史

平成21年4月1日付けで本校に体育教員として着任いたしました山本直史です。私は広島県で生まれ育ち、広島県立三原東高等学校を卒業後、国立唯一の体育大学である鹿屋体育大学に進学し、その後同大学院修士課程、博士後期課程を経て現在に至っています。大学学部生の頃は水泳部に所属し、柴田亜衣（アテネ五輪800m自由形金メダリスト）らと共に練習を積み、大学院からは健康づくりをキーワードとして研究に取り組んで参りました。また、博士後期課程入学後は学生として在籍すると同時に

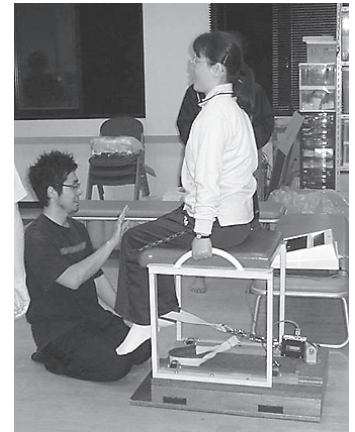


鹿児島県健康プラザ健康増進センターに健康運動指導士、並びに研究員として勤務し、中高齢者に対する運動を中心とした健康教育実践などを担当しました。

本校着任に当たって、私は以下の2点を特に重点的に取り組んでいきたいと考えています。1点目は学生の良好な

生活習慣の確立です。近年話題のメタボリックシンドロームなどの生活習慣病は、長年の不良な生活習慣に起因して発症します。大学時代の生活習慣はその後の人生の生活習慣を決定する重要なファクターです。したがって、全学科必修科目である体育理論や体育実技を通じて、良好な生活習慣を獲得する重要性およびその方法を伝え、それを実践する機会を提供していきたいと思えます。2点目は、海技士を目指す学生に対する水泳指導です。私の父も海技士（機関）として長年勤務しておりました。海技士取得という父と同じ志を持った学生に、水泳を通じて関わることのできる本校に着任できたことを非常に嬉しく思っています。

本校には、素直な学生が非常に多い印象を受けています。学生たちの更なる成長に少しでもお役に立てるよう、これから精進してまいります。若手らしく失敗を恐れず、何事にも積極的にチャレンジしていきます。皆様のご指導のもと、これから一生懸命頑張っていきますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

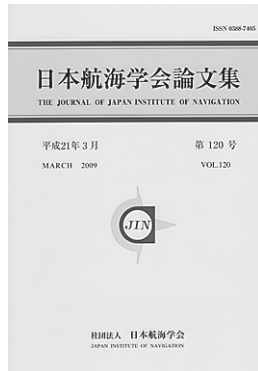


体力測定風景

## はじめて本校で日本航海学会を開催

海洋生産管理学科 教授 奥田邦晴

ほとんどの教員が研究活動として学会に入会しています。その中の学会の一つに(社)日本航海学会があります。この学会には、海洋生産管理学科で船の運航に関する研究を行っている教員、また練習船の航海系の士官の数人が入会しています。(社)日本航海学会は、航海に関する学術を考究し、その向上をはかるとともに海技の調査研究を行い、海上産業の発展に寄与することを目的として、年2回春と秋に講演会・研究会が開催されます。そのうち春は東京で行われ、秋は関西にある大学と地方にある大学、高専が担当校となって、その大学、高専のある地で開催されることになっています。10年近く前から学会本部より水産大学校で開催できないかという打診が



②日本航海学会が発行する論文集と学会誌。論文集の写真中央のシンボルは日本航海学会のロゴマーク

あったのですが、本校の学会員の少なさや会場の準備が整わないという理由で、先延ばしにしておりました。昨年、新校舎の完成に伴い会場の確保ができ、また新耕洋丸のPRも兼ねた見学も行えるということで、本年秋の講演会・研究会の開催担当校を本校では、はじめて引き受けることにいたしました。

スケジュールはつぎのようになっています。

10月15日(木) 学生講演会(高専の専攻科学生の研究発表です)

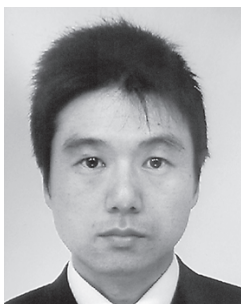
10月16日(金) 講演会(一般正会員、学生会員の講演会です)

10月17日(土) 研究会(9研究会があり、午前午後に分かれて講演会、見学会が行われます)

参加者数は、全国から約100名を予定しています。10月15、16日は平日で講義も行われていますが、講義の迷惑にならないよう細心の注意を払って準備をしたいと思っています。また、講演会の時計係、会場準備等に専攻科生の補助をお願いする予定です。予算面では、本校後援会の援助をお願いしています。さらに、下関観光コンベンション協会からも助成をしていただくことになっております。感謝いたしますと共に、皆様方のご支援をよろしく願います。なお、9月下旬には日本航海学会ホームページ(<http://homepage2.nifty.com/navigation/>)でプログラム、要旨集等が掲載されます。

## 着任にあたって

海洋機械工学科 助教 山西 大



私が本校に赴任して早5ヶ月が経ちました。本校機関学科(現:海洋機械工学科)を平成7年に卒業し、神戸商船大学大学院(現:神戸大学海事科学部)修士課程に進学しました。大学院ではディーゼル機関の燃料噴霧の燃焼について研究しました。大学院修了後、研究だけでなく実際の船舶における機関運転や整備方法を学ぶため、本校

の専攻科に入学し船舶機関士を目指しました。専攻科卒業後は日本海洋事業株式会社に入社し、海洋科学技術センター(現:海洋研究開発機構)所属の海洋調査船の機関士として太平洋での海洋観測などを行いました。また、船舶機関士としてばかりでなく、有人潜水調査船(しんかい6500・しんかい2000)や無人探査機のオペレーションを行い、深海生物の観察や地震計の設置なども行いました。この様に海洋調査に携わることによって培った知識を後輩の教育に役立てることができればと思い水産庁に入庁しました。入庁後は漁業調査船や漁業取締船、そして平成19年には練習船天鷹丸の機関士として乗船しました。乗船中は学生の指導にあたる一方、下関停泊中には本校でディーゼル機関の排ガスについての研究に取り組みました。

私は船用機関からの排ガス中のPM(粒子状物質)を低減することを目標に研究しています。PMは主にディーゼル機関や工場の排ガスに含まれるすす成分で構成され、これが大気中に広がるとぜんそくなどの呼吸器系疾患を引き起こす恐れがあるSPM(浮遊粒子状物質)と呼ばれるものとなります。このためPMの規制が世界中で進んでおり、これを低減することは急務とされています。船用ディーゼル機関は多種多様であるためPMを正確に計測することは非常に困難です。しかし、本校の研究室は正確に計測する技術を開発し、世界中の注目を浴びております。この技術を活用することによりPMの低減装置の開発につなげたいと思います。



PM低減効果

## 食品科学科の新しい授業がスタート

——魚餐とビジネス——

食品科学科 教授 原田 和樹

平成21年4月から、食品科学科では、3年生対象の授業科目「魚餐とビジネス」をスタートさせました。この科目は、1年生の時に受講した「魚餐の科学と文化」の続きの色合いが強いです。すなわち、1年生の時は、学外から水産業の文化を担うプロをお呼びして、まず、学生達に水産に慣れ親しんで貰いました。例えば、講義の後に、トラフグを捌いたりする調理実習が行われるのです。そうして、食品科学科の学生達は水産に慣れ親しんで行くのです。

3年生になりましたら、学生達は、強く就職を意識し始めます。そこで、学生達の水産系の職業に対



本校食品科学科のOBで㈱大冷の常務取締役の後藤健一氏と、講義中に学生達が「骨なし魚」を試食しているところ

する正しい理解とモチベーションを高めて貰うのが、今年から始まった授業の「魚餐とビジネス」なのです。

水産ビジネスの分野で成功しておられる外部講師を呼んで、ビジネスの成功体験談や苦労話、現状の問題点や将来の希望などを、身近に語って頂くのです。

講義の範疇は、水産小売業、水産流通業、水産加工業、水産市場、貿易から見た世界の中での日本の水産業の位置付けなど、多岐にわたっております。

その講師陣の強力なラインナップを紹介しましょう。水産小売業界を代表して、下関唐戸魚市場の中に店舗を構えておられる今人気の(株)林商店の代表取締役社長の林憲志氏、また、水産市場を代表して、フグの取り扱い量日本一を誇る前述の下関唐戸魚市場(株)の代表取締役の松村久氏、水産加工分野からは、本校食品科学科のOBでもあり、「骨なし魚」の発明で、病院食や介護食の分野で一世を風靡し、また、食育の分野で大議論を巻き起こした(株)大冷の常務取締役の後藤健一氏、更に、蒲鉾業界では優良企業と折紙が付いたフジミツ(株)代表取締役社長の藤田雅史氏、流通や貿易の分野からは、本校食品科学科のOBで世界を飛び廻っておられるクラレイ(株)商事部水産課課長の松本英丈氏



フジミツ(株)の藤田雅史代表取締役社長による「水産加工食品の蒲鉾の新しい企業展開」の講義風景

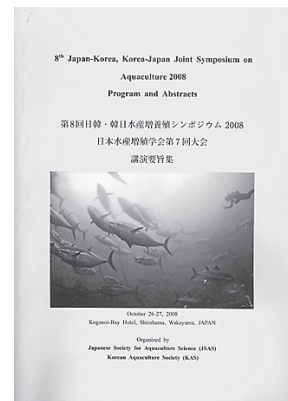
や、日本貿易振興機構(ジェトロ)山口貿易情報センター所長の井手謙太郎氏といった最強のメンバーで講義をして貰いました。学生達にとって、生のビジネスマンから、直接、話を聞く機会はそう多くないはずで、きっと、心の中に、ずしりと講師陣の言葉が入った事でしょう。

講義の世話係をさせて頂いて思う事は、これだけの水産分野の外部講師の陣容を揃えた講義は、日本広しと言えども、水産大学校だけだろうなあと思ひ、水産大学校の学生達は恵まれた教育環境に居るなあと感じました。平成21年度の前期の講義は終了しましたが、今後の学生達の就職活動に、きっと役立つと信じております。

## 日本水産増殖学会事務局を生物生産学科教員が中心に協力して担当

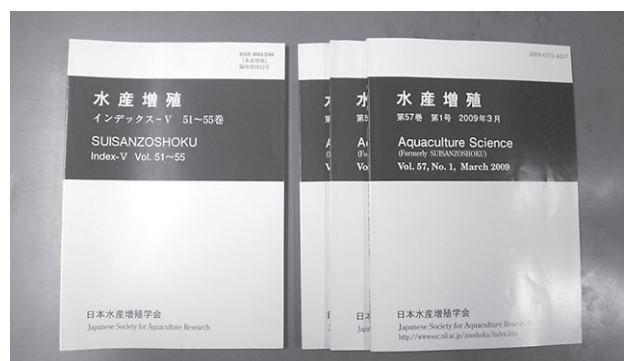
生物生産学科長 教授 酒井 治 己

平成21年4月より平成24年3月まで、生物生産学科が中心となって日本水産増殖学会の事務局を運営することとなりました。会長に山元憲一校長を頂き、酒井が副会長、事務局として、総務幹事を早川康博教授、庶務幹事を荒木 晶講師、会計幹事を半田岳志助教、編集幹事を近藤昌和講師が受け持ちます。編集委員会として、高橋幸則研究科長が委員長を担当し、須田有輔教授、池田 至准教授、稲川裕之准教授、野田幹雄准教授、宮崎泰幸准教授(食品科学科)、竹下直彦准教授、村瀬 昇講師、高橋 洋助教らも編集委員に名を連ねます。



昨年10月に和歌山県白浜で開催された韓国養殖学会と共催の国際シンポジウムの講演要旨集

日本水産増殖学会は、昭和28年日本水産学会水産増殖談話会の発足に始まり、同年10月には会誌「水産増殖」第1巻第1号を発行。その後、1991年



日本水産増殖学会が発行する会誌

4月に行われた総会で「日本水産増殖学会」となることが了承され、新たな学術団体として歩み始めました。

日本水産増殖学会は、水産増殖に関する知識の交流と普及を図り、会員相互の連絡を緊密にすることを目的としています。上記の目的を達成するために会誌「水産増殖 Aquaculture Science」などの発行、講演会・討論会・研究会などの開催などを行います。また、2年に1度韓国養殖学会と共催で国際

シンポジウムを開催しています。会誌の発刊数は年間4号で、合計約80報の論文を掲載しています。平成21年現在で57巻となり、水産増殖・養殖に関する貴重な知見を提供し続けています。

三年間という短い期間ではありますが、その事務局を水産大学校が担えることを誇りに感じ、現場に則しかつ質の高い水産増殖・養殖に関する情報発信を継続できるよう、一同一丸となって運営に努力する所存であります。

## 在校生の声

### 私の大学生生活

水産流通経営学科2年 岡崎拓矢

私は小学生の頃から海や魚が好きで、将来は海と関わるのできる職業に就きたいと考え、水産大学校に進学しました。現在は、学校近くの下宿に住んでいます。下宿では風呂や炊事場、トイレなどが共同なため不便なこともありますが、友達と部屋がとても近いので、一緒に勉強や食事ができ、とても楽しく過ごせています。今の下宿に住んで本当に良かったと思います。

私は学校の授業以外にも、地域の漁協で行われるイベントなどへも積極的に参加しています。彦島漁協で行われた「みこし祭り」では、みこしの担ぎ手として参加させてもらいました。地元の漁師の方々と交流する中で、漁業の現状や祭りにかける豊漁への思いを知ることができました。また、阿川漁協での漁業体験では、ウニの採集から加工に至るまでを体験し、漁業を営むことの厳しさを学びました。このような体験も水産大学校に来たからこそできることだと思います。これから積極的に様々なことを体験し、さらに充実した大学生生活を送って行きたいと考えています。

### エンジョイ・キャンパスライフ

海洋生産管理学科4年 上田 碧

この4年間を振り返ってみると普通の大学では出来ない、様々な体験をしてきました。

私はダイビング部に所属しており、いろいろな場所へ行って潜るという事をしてきました。それは、私にとってとても有意義な時間であり、思い出すたびに心がワクワクするような体験ばかりでした。凶鑑や獲った後でしか見ることの出来ない魚を、海中で間近に観察でき、自然の雄大さ、命の尊さ、そして自然の驚異を知ることが出来ました。

また、海洋生産管理学科では2年次と3年次に乗船実習があり、船橋の見張りやトロール実習、STD（塩分濃度や水温等を計測する装置）観測などの実習を行い、船の運航だけでなく、生物や海洋環境等の様々な分野の知識を学ぶことが出来ました。特に、トロール操業では、今まで見たことの無い生物が水揚げされ感動したことを覚えています。さら

に、4年後学期に行われる遠洋航海実習では、東南アジアや南太平洋など外国の港へ寄港することも予定され、次はどういったことが学べるのか、とても待ち遠しくてたまりません。

私自身、卒業後は専攻科船舶運航課程への進学を希望していますので、残された1年半の大学生生活を、さらに充実したものにしていきたいと思えます。

### 丁寧な授業と気さくな教員に 支えられて

海洋機械工学科1年 柴岡卓洋

私は国立館山海上技術学校出身で、これまで専門的な勉強をしてきました。しかし普通高校の授業とは学習範囲が違うところがあるため、最初はとても不安でした。しかし、この海洋機械工学科に入学して授業などを受けていくうちに、そんな不安はいつの間にかなくなっていました。

それは、私のような基礎学力にあまり自信がない人にも、学力を補うためのセミナーが充実しており、海洋機械工学科では少人数体制の講義などもあったため、一から丁寧に学ぶ事ができました。そして何よりも良かったのが、学生と先生との壁が薄く、気軽に話ができ、とても雰囲気がいいという事です。

このような講義やこの水産大学校独自の和やかな雰囲気などのおかげで、いまだに足りない所は多くありますが、今は着実に一步一步踏み出せていると思えます。

これからは、専門的な機械に関する講義も入ってくるのでそれを学ぶ上でも今までの知識が活かせる様に、今できる事をしっかりと身につけていこうと思えます。

### 水大生になって2年

食品科学科2年 野口太志

皆さん初めまして、私は食品科学科の2年生です。去年の4月に海や魚が好きで、食品という身近な分野のことを知りたいと思い、この水産大学校に入学しました。入学当初は片道2時間かけての通学で家に帰っては疲れてすぐに寝ていました。それでも友人と一緒に講義を受けたり遊んだり毎日充実



実していて、今では長い通学時間も日常に溶け込んでいます。1年生の頃は大学で必要な基礎の講義が中心でした。そして1年の後期で初めて実験があり、今

はその基礎や実験を活かしたより難しい実験をしています。また、1年の頃から学校独自の「水産食品士」という資格を取るために色々な魚を自分たちでさばいて、魚の調理法などを勉強しています。3年生になると就職活動や乗船実習など今まで以上に忙しくなるとは思いますが、それまでにしてきたことを活かしてより良い大学生活を過ごしたいと思えます。

## 水産大学の魅力

生物生産学科3年 山口 耕造

夢を抱いて入学してから早くも2年が経ち、私は3年生の中盤を迎えようとしています。水産大学では、これまでに様々なことを学びました。一般教養に加え、1年次から魚類やその他海洋生物に関するより専門的な講義や実験があり、また大学の周りが海で囲まれているということもあって、講義で学んだことを間近で確かめたり、実験サンプルを自分自身で採集したりと、水産生物を学ぶには最適の環境です。またその他にも、練習船で行う乗船実習や、各実習場での実習など、他大学では滅多に味わ

うことのできない貴重な体験は、生涯の思い出となること間違いなしです。ここでの生活は、華やかさや便利さといった面では、他の大学と比べて欠ける部分があるかも知れませんが、ここにはそれを上回る程の魅力がたくさんあります。あとたったの2年間ですが、私はこの大自然に囲まれた大学で、夢に向かって仲間とともに日々前進していきたいと思えます。

## 日本の食文化に貢献したい

水産学研究科2年 藤岡 侑祐

小さいころから釣り好きだったこともあり、日本の魚食文化の発展に貢献したいと思い水産大学に入学しました。そしてこの学問にやりがいを感じ、さらに深く研究したいと大学院進学を決断しましたが、進学先を水産大学にするか他の大学院に移るか決めかねていました。しかし最終的にこの学校に残った理由は、研究設備が非常に充実していること、そして信頼できる先生に出会えたことでした。今私は魚の「におい」について研究しています。肉や野菜、穀類などの他の食材以上に、魚介類の食味にはにおいが密接に関わっています。ある魚のにおい一つとっても数百種類にも及ぶ物質から構成され、日々それらを高精度な分析機器で調べています。また、この研究分野は長い歴史を持ちますが、近年の分析技術の発達により、より大きく展開するだろうと考えています。この研究で、以前からの目標である「日本の魚食文化への貢献」を少しでも達成できればと思っています。

## クラブ紹介

### 剣道部

剣道部主将  
水産情報経営学科3年 山本 泰平

我々剣道部は、一年生5名、二年生10名、三年生2名の計17名で週3日稽古に励んでいます。他大学に比べれば、決して多い稽古量とは言えませんが、一日一日を大切に一所懸命に頑張っています。

剣道は、相手を打って上達します。防具を付けているとはいえ、打たれば痛いものです。そのため相手を敬う気持ちを持たなければなりません。その一つが最初の礼と最後の礼です。それが「剣道は、礼に始まり礼に終わる」と言われる所以です。我々剣道部も礼を大切にしています。

また剣道は、竹刀を相当な速さで振るため、勝ち負けが一瞬のうちに決まってしまう。相手と離れた距離で、竹刀を用いるので体格やパワーが違っていてもそれ以外の能力を用いたり工夫することで体格やパワーを補うことができます。それが剣道の面白いところであり難しいところでもあります。

試合は、5月に行われる中四国学生剣道大会が自分たちが参加する大会で一番大きな大会です。他に

は、春と秋の北九州下関インカレ、下関市内の職域等に参加しています。

剣道は、暑い夏の日にはやる暑稽古や寒い冬の日にはやる寒稽古などあえて厳しい環境に身を置いて稽古することで精神力を身につけることができます。

我々剣道部のこれからの目標は、11月に行われる秋の北九州下関インカレで少しでも上位にいけるように自分たちの剣道を磨き、また勝ち負けのみにこだわらず楽しい剣道をやっていききたいと思えます。



# 学生部だより

## 平成20年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 前田和幸

本校では学内に「就職対策検討委員会」を設置して学生の就職支援を行っています。委員会は、委員長(学生部長)と各学科長及び1年生～3年生のクラス担当教員からなる委員で構成され、事務局として学生課がこれを補佐しています。

主な活動は、(1)3年生を対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストを含む専門講師による就職ガイダンスの開催。(2)就職手引き書「大学生のための就職応援ブック」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導を行う。(3)各学科の就職担当者及び学生部職員が、水産関連会社・団体等を訪問し、本校及び本校学生の紹介を行うとともに、企業

等の採用情報を把握する。(4)毎年1月末に、合同企業説明会を実施等です。特に、今年の1月24日(土)に開催された、本科3年生と専攻科進学予定の4年生及び研究科1年生を対象とした合同企業説明会には、採用実績のある企業73社140名の参加がありました。出席した学生数は250名で、対象とした学生のほとんどが出席しました。

このような活動の結果、平成20年度卒業・修了者245名(本科197名、専攻科37名、研究科11名)の就職率は97.5%でした。この内、水産関連分野に78.5%が就職し、昨年度の就職率98.2%(水産分野76.2%)に引き続き高い就職率を維持しています

なお、本科、専攻科、研究科における進路状況及び進学・就職内定先は別表のとおりです。

## 平成20年度卒業・修了者の進路状況

平成21年3月31日現在

本 専 攻 科 研 究 科	卒業 者 数	進学関係					水産関連分野							そ の 他 分 野	(1) 水 産 関 連 就 職 率	(2) 就 職 率				
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	研 究 生 等	計	国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	各 種 団 体	漁 業 ・ 養 殖	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等				資 機 材 供 給 等	計		
水産流通経営学科	男	15	2			1	3		1	1		1	3		3	9	3	75.0	100.0	
	女	2									1	1	2			2		100.0	100.0	
	計	17	2			1	3		1	1	1	4	4	11	3			78.6	100.0	
海洋生産管理学科	男	49	1	4	24	29		1	1	3		2	3		5	15	4	78.9	95.0	
	女	5			1	1					1	1			3	1		75.0	100.0	
	計	54	1	4	25	30		1	1	4		2	4	1	5	18	5	78.3	95.8	
海洋機械工学科	男	47		1	28	29				1			1	13	15	3		83.3	100.0	
	女	2		1		1							1	1	1			100.0	100.0	
	計	49		2	28	30				1			1	14	16	3		84.2	100.0	
食品科学科	男	25	2	5		7			2		8		3		13	5		72.2	100.0	
	女	20	1	2		3			1		9		3		13	3		81.3	94.1	
	計	45	3	7		10			3		17		6		26	8		76.5	97.1	
生物生産学科	男	27	3	5		8			4	2		6	3		1	16	3	84.2	100.0	
	女	5				1	1				1	1			2	2		50.0	100.0	
	計	32	3	5		9			4	2		7	4		1	18	5	78.3	100.0	
計	男	163	8	15	52	1	76		1	6	9		17	10	3	22	68	18	79.1	98.9
	女	34	1	3	1	1	6			2			10	3	4	2	21	6	77.8	96.4
	計	197	9	18	53	2	82		1	6	11		27	13	7	24	89	24	78.8	98.3
専攻科船舶運航課程	男	14						1					6	1	1	9	4	69.2	92.9	
	女	3								1			1	1	3			100.0	100.0	
	計	17						1		1			7	1	2	12	4	75.0	94.1	
専攻科船用機関課程	男	17						2	1				6	1	2	12	5	70.6	100.0	
	女	3											3	3				100.0	100.0	
	計	20						2	1				6	1	5	15	5	75.0	100.0	
計	男	31						3	1				12	2	3	21	9	70.0	96.8	
	女	6								1			1	4	6			100.0	100.0	
	計	37						3	1	1			13	2	7	27	9	75.0	97.3	
研 究 科	男	10	1			1				2		1		1	3	7	1	87.5	88.9	
	女	1								1					1			100.0	100.0	
	計	11	1			1				3		1		1	3	8	1	88.9	90.0	
総 合 計	男	204	9	15	52	1	77		4	7	11		18	22	6	28	96	28	77.4	97.6
	女	41	1	3	1	1	6				4		10	4	4	6	28	6	82.4	97.1
	計	245	10	18	53	2	83		4	7	15		28	26	10	34	124	34	78.5	97.5

注：(1)(水産関連)÷(就職内定者) (2)(就職内定者)÷(就職希望者)

【分類内訳】 各種団体：水産に係る団体（漁業、流通、船舶等関係団体）  
 水産関連 漁業・養殖：水産動植物の採捕又は養殖の事業者等  
 水産加工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者  
 水産流通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者  
 海洋水産・調査開発等：海洋水産関連の調査会社  
 資機材供給等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者等  
 その他：水産業関連以外（公務員・団体・企業）

平成20年度卒業生進学・就職状況一覧表

平成21年3月31日現在

◎進学(大学院等)	ジャパンシーフーズ	日本郵船	太平電業
北海道大学大学院	マルハニチロ	商船三井	神戸発動機
東京海洋大学大学院	伊藤忠フレッシュ	太平洋フェリー	マリンハイドルテック
静岡県立大学大学院	フンドーキン醤油	ダイヤモンドフェリー	前川製作所
香川大学医学部博士課程	プライムデリカ	日正汽船	内海造船
九州大学大学院	はごろもフーズ	オーシャントランス	日新興業
長崎大学大学院	フジミツ	川崎汽船	日本農産工業
鹿児島大学大学院	サンヨーフーズ	川崎近海汽船	エクセルマリン
水産大学校研究科	久世	九十九島水族館	<b>ニッスイマリン工業</b>
◎就職(官公庁)	キスコフーズ	CRC 食品衛生環境研究所	ヤンマーエネルギーシステムズ
水産庁	カネサン水産	アース環境サービス	早駒運輸
国土交通省	MCC	共同船舶	三栄源
山口県上級	一番食品	自主検査センター	神畑産業
大分県上級	奥野製薬工業	林一二	新和内航海運
栃木県上級	日本クッカー	日本海洋事業	ブルボン
三重県いなべ市	天野実業	グローバルオーシャンディベロップメント	餃子の大将
堺市	ヤマサ蒲鉾	沖縄美ら海水族館	丸八証券
五島市役所	ユタカフーズ	広島信用金庫	東洋額装
宮崎海洋高等学校	武蔵野	日立造船	トヨタエンタプライズ
◎水産関係等各種団体	エスフーズ	翔薬	サルベール
山口県漁業協同組合	林兼産業	コア	三浦工業
日本小型船舶検査機構	農水フーズ	シーゲートコーポレーション	大塚商事
新日本検定協会	丸大食品	ゼニライトバイ	下関消防局
全国共済水産業共同組合連合会	河久	尾道造船	東京フード
日本遠洋旋網漁業協同組合	クラレイ	菊谷茂吉商店	コメリ
日本冷凍食品検査協会	ベニレイ	ホクモウ	アレフ
海事検定協会	九州魚市	東亜建設工業	清和不動産
日本海技検定	マルミヤストア	大同メタル工業	あわしま堂
大日本水産会	北九州中央海産	TAIYO	コンテック
兵庫県漁業協同組合連合会	山九	東京計装	伊藤園
福岡県漁業協同組合	美濃吉食品	ダイキンアプライズシステムズ	たか食品工業
三重大学船舶職員	徳島大水魚市	三井造船マシナリーサービス	アンデルセングループ
◎民間企業	文洋	日阪製作所	さんわコーポレーション
日本かつお・まぐろ漁業協同	葉山船舶	旭洋造船	順不同
第一中央汽船	リベラホールディング	山陽放送	
太洋日本汽船	新和海運	出光タンカー	
アステラス製薬	飯野海運	アド印刷	

平成21年度入試状況

本校の平成21年度入試状況をお知らせします。

推薦・一般入試の志願者総数は636名で、昨年度より115名増加しました。昨年11月に実施された推薦入試には、全学科で112名の応募がありました。また、今年2月に実施された一般入試には全学科で567名の応募がありました。一般入試の学科別応募状況は、水産流通経営学科31名(募集人員16名に対する倍率1.9倍)、海洋生産管理学科80名(募集人員23名に対する倍率3.5倍)、海洋機械工学科78名(募集人員32名に対する倍率2.4倍)、食品科学科133名(募集人員27名に対する倍率4.9倍)、生物生産学科245名(募集人員18名に対する

倍率13.6倍)でした。

一般入試の過去5年間の推移は、17年度935名、18年度634名、19年度636名、20年度453名、21年度567名でしたが、昨年度の大幅な減少に比較すると、今年度は受験者数がかかなり回復してきました。これは、①福岡試験場の新設、②物理の出題範囲を「I・II」から「I」とする、③推薦入試のC制度を全学科で実施するなどの受験生確保のための改善を図ったことも奏功したと推察しています。今後もオープンキャンパス、高校訪問や公開講座等の広報活動および入試制度の改善を通じて、本校の特色と個性豊かな教育方針を全面に打ち出し、受験生に魅力ある大学校となるよう一層の努力をして参る所存であります。





# 水大学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 「潮どきを読める」人材育成へ

理事長 鷲尾圭司



「新」と漢字が選ばれた年を過ぎ、確実に新しい時代に入りつつあると感じられる日々を迎えています。水産大学校においても独立行政法人になって二期中期計画も最終年度を迎えようとしており、新たな三期の計画づくりも急がれています。その中で、時代の要

請に合い、かつ水産業というわが国の重要分野を担う若者を送り出す使命は、より強くなってきていると思います。

ご心配いただいておりますように、政権交代とその後の事業仕分けで独立行政法人を抜本的に見直すという動きが強まっております。本校もその対象ではありますが、わが国における水産の重要性は申すまでもなく、この少子化の時代に受験生の競争倍率も6倍を超え、卒業生の進路においても水産関連分野へ75%以上を輩出するなど、実績は自慢できる状況にあり、理解は得られるものと考えております。

また、閉塞感の漂う時代にあって、水産をめぐる課題も多くなっています。水産物の自給率を回復させるにはどうすればよいのか。化石燃料依存という石油文明から脱却して循環型のエネルギー利用を考えたとき、漁船や加工場などの燃料をどの様に確保するのか。過疎化が進む漁村に今一度活気は戻ってくるのか。これまでの「水揚げすれば終わり」という漁業から、どの様にマーケティングやブランド化を図り、国民に健康と安全を提供していくのか。若い

世代の理科ばなれ、調理ばなれをどの様に引き戻すのか。これらの課題は、従来の先行モデルをなぞる教育研究では間に合わなくなっています。新たな視野の広さと、現場をもとにした探求力が求められます。

そこで水産大学校では、5学科体制を維持しつつ機動的な教育を進めるため、各学科を2講座制に再編成します。また、練習船教育や学外施設などでの講座外実習を一元的に運用する「実習教育センター」を新設いたします。これにより、水産関連分野の寄せ木細工ではなく、有機的な水産人養成を図りたいと考えています。それは、今とこれからの時代を担う「海幸彦」を現場の問題解決能力を持った人材として送り出すためです。

話は変わりますが、漁師の名人といわれる人たちとお話をすると「潮どきを読む」とよく言われます。海の潮どきは、本校の学生なら潮汐表という海の暦(こよみ)から読み取ることが出来ます。そんな便利な資料がなかった時代には、漁師は毎日「月」を見ました。その満ち欠けから潮の干満を知り、それに伴う現場の潮の流れを推測して、漁の段取りを決めていました。こうした経験知は親なり親方から口伝されてきたもので、それは単に海水の動きにとどまらず、季節ごとの魚の動き、つまり生態系の息吹きも加味され、さらには競争相手になる他の漁村を含めたライバルたちの動静予測まで含まれたものでした。

残念ながら、潮汐表や近代的な漁船装備、情報設備には、海水の動きや魚群の影は素人でも見る事ができるようになりましたが、他の生物や人の動きに関する情報は含まれてはいません。そこで本校の実学教育では、近代技術に加えて現場の達人からも伝統的な経験に基づいた知見が得られ、体感できるプログラムを増やし、水産大学校を拠点に、海に遊び、海に学ぶ学生たちの「潮どきを読める」成長に期待したいと思います。

最後になりますが、本校へのご支援をお願いするとともに、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

水産流通経営学科 准教授 兼 企画情報部長  
中里 靖

昨年10月1日付で、本校の水産流通経営学科准教授兼企画情報部長として、着任いたしました中里靖と申します。私は、これまで行政の仕事をしており、昭和60年に水産庁に入庁した後、水産庁内で

の異動のほか、長崎県への出向、農林水産省内の総合食料局への配属など、水産もしくは、それに関わる多くの行政ポストを経験して参りました。

この間、漁業白書(現在の水産白書)の編纂や、養殖に関する法律の制定、食品流通に関する基本方針の策定、水産施設の整備事業の推進などに携わりました。特に、長崎県に出向した際には、ちょうど有明海のノリの大不作が社会問題として取り上げられていた時であり、長崎県で行われていた諫早湾干



拓事業がその原因として疑われました。当時、その解明に向け、他県の漁業者を中心に諫早湾干拓地の排水門開門調査を行うべきとする声が強かったのですが、長崎県としては、落ち着きつつある諫早湾の環境が、開門調査により再び悪化するおそれがあるとして、反対する立場を取って

おりました。私が長崎県に着任して最初に命じられた出張は、この開門調査に関わるもので、漁業者の現場の声を聞きつつ、いっしょに開門調査反対の集会に参加しました。同じ有明海の漁業者でも立場や見解の違いを肌で感じた次第です。また、総合食料局では、予算要求作業や法律に基づく基本方針の策定に携わる一方で、食品偽装に係る不祥事や中国産餃子薬物混入事件などもあり、食品量販店に赴く、もしくは農林水産省にご足労頂き話を伺ったり、餃子事件では、影響を把握するため、毎日のように電話で販売状況を調査するなどいたしておりました。水産とは異なる業種の方々とは仕事をさせて頂いたことで、自分の視野を広げることにつながったと感じております。

現在、水産流通経営学科准教授兼企画情報部長ということで、2つの肩書きを頂いており、22年3月までは、独立行政法人の業務運営に欠かせない中期計画の策定作業が業務の中心となります。しかし、4月以降には授業を行うこととなっております。これまでの経験を活かしつつ水産行政に係る授業を行うこととしておりますが、予備知識を有する方々を相手にし、業務を進めていたこれまでの行政事務とは異なり、学生の方々がいかに新たな知識を吸収し、それを活かす能力を身に付けるかが焦点となると認識しております。このため、授業については、メリハリのある、またポイントを把握しやすい授業を心がけたいと思っておりますが、学生の方々には、授業の内容が分からないと感じた場合には、すぐに指摘して頂き、充実した授業となるよう協力頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

## 国際共同調査の実施

海洋生産管理学科 准教授 下川 伸也

海洋生産管理学科4年生の後学期には、耕洋丸による5ヶ月間の遠洋航海実習が実施されます。航海士にとって必要な基礎的海上技術の習得と海洋調査、漁業実習や遠洋区域への航海による外国港湾への寄港体験を通して国際感覚を身につけるなど、学科の主要な実習科目と位置づけられています。

近年、最新鋭の装備を誇る耕洋丸の竣工と相まって、この遠洋航海の途次に国際共同調査が行われています。調査内容が水産・海洋調査、海洋環境観測、漁業資源調査などであり、海洋生産管理学科の先生方の研究分野との関連が深く、担当の先生が現

地へ赴き遠洋航海途次の耕洋丸に乗船し、調査に参加する例が少なくありません。2009年度の第15次航海においても、2件の調査が行われました。まずは航海前半にベトナム社会主義共和国の主権水域において、同国研究者と共に大陸棚斜面の漁業資源及び海洋環境観測の調査が行われ、中村先生が参加しました。また航海後半には、パラオ共和国の主権水域において同国研究者と共に回遊性魚類（マグロ類）の分布や生息環境などの水産・海洋調査、漁場海域の海底形状調査などが行われ、下川が参加しました。

ここでは、パラオ共和国との国際共同調査について、その概要を紹介します。

パラオ共和国海洋資源局からの要望事項として、1)マグロ類の漁獲が減少しつつあり、海洋環境の変化で、好漁場がパラオ東方海域へ変化している。その実態を調査したい。2)パラオ諸島南西約100マイル沖合に水深23mの海山が存在するとされているが、その海山周辺の海底を詳細に調査したい。とのことでした。そこで、現地調査員1名（パラオ海洋資源局研究員：Ms.Kathleen Sisor）の乗船と共に、12月22日から1月3日までの間にパラオ周辺海域において調査航海が行われました。この間の航程としては、12月22日13:50コロール港を出港し、南東海域のマグロ漁場へ向けて航行。23日～30日の7日間、延縄漁具を用いた回遊性魚類の分布調査。31日～1月2日の3日間、パラオ南西海域の海底形状調査。3日10:00コロール港へ再入港。

調査航海中は、海面も穏やかで計画通りスムーズに進行することができました。洋上で、乗組員をはじめ乗船学生の安全・的確で機敏な作業ぶりに感動されている様子とともに、耕洋丸の計測機器類が調査員の予想を超えた充実ぶりに満足なデータが得られたと感謝しきりでした。今後とも、パラオに寄港して調査を継続して欲しいと話されてもいました。さらに、再入港後の1月7日には、パラオ共和国自然環境・観光大臣（Minister The Hon. Harry R.Fritz）の表敬訪船を受け、大臣より共同調査の成功に感謝の言葉を賜りました。

今回の国際共同調査を実施するに当たり、事前に調整いただいた水産庁国際課及び本校企画課の職員



パラオ自然環境観光大臣の訪船



パラオでの調査の様子（魚体測定）

の皆さんに感謝いたします。また、実際の調査において、耕洋丸團野船長をはじめ乗組員及び乗船学生各位に多大なご尽力を受けました。さらに、海洋生産管理学科の教員各位にもご理解とご協力を賜りました。皆様に心よりお礼申し上げます。

最後に、パラオ共和国は治安も良く、親日ムードでとても過ごしやすい国です。国旗も日本の国旗に色違いでよく似たデザインで、紺碧の海に満月をイメージして制定されたと聞きましたが、大きな月に照らし出される珊瑚礁の海はとても素晴らしい光景でした。本校では、来年度以降も国際共同調査を推進されるよう計画が立てられています。今回の経験を踏まえ、微力ながら協力していきたいと考えています。

## 大気環境汚染物質の計測と低減技術

海洋機械工学科 教授 前田 和 幸

大気環境改善に関する地球規模的な取り組みの中、船舶を起源とするNO<sub>x</sub>（窒素酸化物）、SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）、PM（粒子状物質）などの大気環境汚染物質に対する規制が、IMO（国際海事機関）において検討・実施されています。船舶に使用されているエンジンは自動車用等の陸上用エンジンに比べて、出力（大きさ）、回転数、使用燃料油などの面で大きく異なるため、これに適合した計測と低減方法を開発する必要があります。

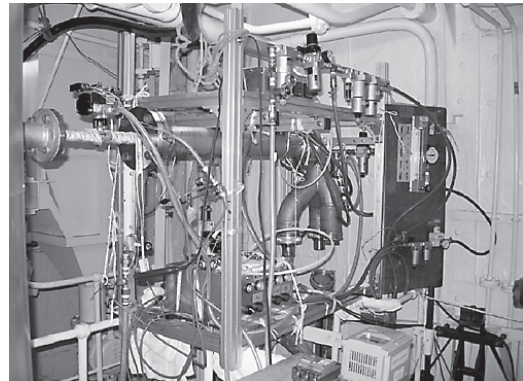
水産大学校の内燃機関研究室では、1990年から船舶を起源とする大気汚染物質の計測と低減に関する研究を開始しました。酸性雨の原因とされるNO<sub>x</sub>については、1991年に水産大学校の練習船「耕洋丸」を用いて日本で最初の実船計測を実施し、この結果を、「NO<sub>x</sub>の排出特性と低減方法に関する研究」として発表したところ、日本舶用機関学会（現、日本マリンエンジニアリング学会）の奨励賞を受賞し、練習船「天鷹丸」を用いた「低減に関する研究」では論文賞を受賞しています。

その後自動車用等の陸上用エンジンにおいて、粒径が数ミクロン以下で呼吸器系の疾患の原因となる“PM”の厳しい規制が始まりましたが、JIS（日本工業規格）／ISO（国際標準化機構）で定められた計測法はC重油を燃料とする船舶用エンジンには適用できないため、規制の前段階である“正確な計測による排出実態の把握”さえできない状態でした。

そこで耕洋丸、天鷹丸を用いた研究やダイハツディーゼル・三菱重工業・航海訓練所との共同研究を行うとともに、日本舶用工業会の協力を得て、C重油使用の実船でもPMの計測ができる「可搬式PM計測システム」を開発し、この装置を用いた研究を国内外の学会・国際会議において発表しました。この計測方法は、石油学会発行の月刊誌「PETROTEC」で紹介されるとともに、2009年4月に改正されたJISに「燃料中の硫黄含有量が0.8%を超える場合にも適用できる計測装置」の例として掲載されました。また次回ISO規格の見直し時に提案されるこ

とになり、水産大学校で開発されたPM計測技術が世界標準となる可能性があります。

水産業は、自然との共存によって成り立つ産業です。また水産業なくして、全人類の生存も成り立ちません。内燃機関研究室では、これからも環境改善に関する世界レベルの研究を推進し続けます。



練習船の排気管に取り付けられた  
“可搬式PM計測システム”の主要部分

## 着任のご挨拶

食品科学科 助教 福 田 翼



平成22年1月1日付で食品科学科食品安全学講座に助教として着任いたしました福田翼と申します。私は、岡山県立岡山大安寺高等学校を卒業後、北九州市立大学に進学し、同大学院で博士号を取得いたしました。本学に着任を致すまでは、同大学で微生物を中心とし、「環境」と

「食品」をキーワードに様々な研究に従事して参りました。

主な研究内容は、複合微生物制御系による新規微生物利用法に関する研究であります。自然界や伝統的手法により製造された発酵食品は、複数種の微生物が混在する微生物群である事が知られています。しかしながら、従来の工業的な微生物利用は1種の微生物のみを利用しております。これは、複合微生物系の培養制御が困難な事に起因しておりますが、本研究により、複合微生物系における新規培養制御法を構築し、高活性を有する新規機能性物質生産や高効率な環境修復技術（バイオレメディエーション・バイオコンバージョン）を実現いたしました。近年では、金属添加型可視光応答光触媒の開発にも参画し、企業や他大学と共に研究を進めておりました。その他にも、特定地域における廃棄物や農作物の新規機能・用途開発なども行っており、地域社会に貢献出来る様な研究を志して参りました。

本学では、これまでの専門領域の研究はもちろんの事、これまでの経験や知識を活かし、水産業者や消費者などと密接に連携し、水産に関する理解を深めると共に、現場問題の克服に直結する様な研究を

行い、水産業界に貢献していきたいと考えております。また、近年、科学におきましては、専門領域間の交流による新たな報告が多くなってきた様に思います。したがって、座学では物事の原理・原則を具体的に理解させた上で、教科書などを通じ、抽象的(科学的)な理解へと発展させ、さらに、教科書を中心としながらも生活や社会に密着した様々なトピックスを踏まえた知的活動型教育と実習などの体験型環境教育の両者が相乗的に結びつく様な授業を創意工夫しながら進めていきたいと考えております。この様な教育研究活動を通し、現象を理解し、現実問題に対応出来る学生の育成を目指したいと存じます。

浅学非才ではございますが、教育研究活動に誠心誠意を持って最善を尽くし、皆様のご期待に沿うよう専心努力したいと存じますので、格別のご指導、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

## 日本水産増殖学会第8回大会開催

生物生産学科長 教授 酒井 治 己

平成21年8月27日発行の「水学園だより」第26号でご案内したとおり、現在、生物生産学科が中心となって日本水産増殖学会の事務局を運営しています(会長:山元憲一校長)。学会誌「水産増殖 Aquaculture Science」年間4号を滞りなく発刊し、水産業界に質の高い水産増殖・養殖に関する情報発信を継続できるよう日夜努力しているところです。

去る10月31日の土曜日には、(財)水産大学校後援会の協賛を得て、本校において日本水産増殖学会第8回大会を開催しました。大会には学内外から115名が参加して48件の研究成果発表がありました。中には多くの水産大学校研究科や学部学生の発表も含まれていました。学生を巻き込んだ活発な議論のもとでたいへん有意義な大会となりました。研究を世に問い批判を受ける中で、学生自らも議論に参加し堂々と意見を述べる事ができたことは、何物にも代え難い経験になったものと思います。この経験は、必ずやこれからの彼らの人生を支える自信に繋がっていくことでしょう。これからも、このような活動を通じて生きのよい学生教育を心がけていきたいと考えています。



水産増殖学会の発表風景

## 第15回水産大学校・釜慶大学校学術交流懇談会

生物生産学科教授 兼 企画調整役

須田 有 輔

去る11月16日に第15回水産大学校・釜慶大学校学術交流懇談会が開催されました。今回は水産生物分野をテーマにした交流が行われ、本校からは山元憲一校長、高橋幸則研究科長、酒井治己生物生産学科長、荒木晶講師、半田岳志助教、それに企画調整役が釜慶大学校を訪問しました。

朴孟彦釜慶大学校総長、洪龍基水産科学大学学長を表敬訪問の後、午後からは、約90名の教員、学生諸氏の出席の下、山元、高橋、酒井、荒木、半田各教員により、生理、魚病、遺伝、環境に関する最新の研究発表が行われました。この学術交流懇談会は日韓両国の最新の水産研究事情を知る有効な場となっており、活発な質疑応答は留まるどころを知りませんでした。

研究発表と並んで懇親の集いも催され、すでに顔なじみの教員も、そして新たに交流に加わった教員もそれぞれがお互い親交を深め、ルーツを同じくする両校の友情の絆がますます強まるのを感じました。



釜慶大学校にて、歓迎の横断幕

## 機関部あれこれ

天鷹丸機関長 秋江 四郎

本校には耕洋丸と天鷹丸という2隻の練習船が所属しています。新船となった耕洋丸に比べ天鷹丸は話題が少なく、ご父兄の皆様が本船をお知りになる機会も少ないかと思えます。

天鷹丸は老齢ではありますが、耕洋丸と同じような実習環境を作り上げるよう乗組員は日々努めております。今回は機関部の一般的な仕事などを紹介させていただきます。

以前、小職が調査船に乗船のおり「甲板部の仕事は何となく分かるのですが、機関部はどんなことをしているのですか。機関部の人を通路とか食堂で見かけるのですが。」と研究者の方から聞かれました。これに似たことは度々あり、機関室内が主な守備範囲である機関部員が乗組員以外の乗船者と会う機会

は限られていて、船の機関部がいつそうなじみのない部署と感じられるかもしれません。

機関部の職務は「推進系機械装置及び船内で人が生活できるような環境（ライフライン）の維持、運転管理及び他部が所掌する機器整備の支援と緊急修理等」となります。（天鷹丸は練習船ですので、関係学科学生の実習指導というまでもありません。）

機関室内にはプロペラを回すための機関・機械類とライフラインを維持する機関・機械類が備えられ、船の推進力のほか電気と水を作り出しています。本船にはガス設備はなく、今様でいえばオール電化住居ともいえます。この他、船内は大きなエアコンで室温を管理していますが、これも機関部が担当しております。

これらの機械が24時間何か月も安全に運転できる状態を維持することが機関部の使命でもあります。小職が三等機関士のころ、「毎日、文句もいわず動き続けているエンジンに感謝しろよ」と、機関長からよく教えられたものでした。今となってその意味する深さを感じております。

航海中、機関部の仕事する様子が他の人の目にとまらないことは、機関部の仕事は何事も順調であるということです。ただし、このような状態であるためには、常日頃の運転管理が重要となります。ときに故障が発生すると、機関部員は緊張感が高まるなか、適切な処置と短時間での復旧を心掛け、チームワークをもって対処しております。

こんなことから船内で「機関部は縁の下のちからもち」と自負する所以です。

話題を変えて、最近の機関部の機器システムでは自動化を進める船と自動化をやめ手動化を進める船に分かれる傾向があるようです。自動化は省人化を進めましたが、これとは逆に自動化コストが船価を

押し上げました。ところが漁船でも外国人船員との混乗が珍しくなくなった今、船員費が低く抑えられるため、省人化はこれまでほど必要でなくなりました。発展途上国の外国人船員のみでは、むしろ自動化しないほうが好まれるとも聞きます。ただ手動は取扱者の能力によって影響を受けやすい欠点があります。この欠点を補うために自動化が進んだ歴史もあります。

一方、電気推進船等の高船価船ではより自動化が進められています。

練習船では基本を旨とした実習を行っておりますので、学生はこの基本を習得したのち、実社会でより高度なシステムを実践で学んでいくこととなります。

水産系大学で船舶機関士のコースを持っているのは本校のみです。大学課程で養成される船舶機関士は、その絶対数が少ないため、本校の機関専攻科生には就職を決めるうえで有利にはたらいています。

最後に、今後とも練習船教育へのご理解をいただきますようお願い申し上げます。



天鷹丸船内の機関部の一風景

## 就 職 活 動

### 私の就職活動

～コミュニケーションが重要ポイント～

水産情報経営学科4年 山岡 義明

先輩から自己分析は早めにやっておくと就職活動がスムーズにいくと言われていたものの、私は自己分析をするのが面倒臭く、なんとかなると思っていた。2月になり面接も本格的になり始めた時、ある面接で「君は自分を売っていない。もう一度自己分析をしたほうがいいのではないか。」と言われた。その時期ことごとく一次面接で落ちていた私は、それをきっかけにようやく自分について考え始めた。とはいうものの、何からやればいいのかわからなかった。まず始めに、両親、先輩、同級生など20人程に私の良い点、欠点を書いてもらった。その中から、重複する良い点をアピールポイントにし、具体的な例を考えた。それを踏まえて面接で自分のアピールポイントを話すと今まで一次面接も通らなかったのが嘘みたいに順調になり始めた。

また、説明会や面接に行くとき必ず、同じ就活生や企業の人に話しかけた。それは、緊張をほぐすと同時に、面接でのヒントを得るためであった。

就職活動を終え、今思うことは第一にコミュニケーションが重要ということである。今までは、他人とのコミュニケーションはしていたが、自分とのコミュニケーションをちゃんとしたことがなかった。第二には色々な人に支えてもらったということである。面接に落ちるたび、友人にどこが悪かったのか話し合ってもらったり、たくさんの人に支えてもらったからこそ、自分の行きたい会社に内定を頂いたのだと思う。

### 就職活動を終えて

海洋生産管理学科4年 渡邊 晋也

私が就職活動を開始したのは3年生の12月末からでした。何度か地方で開催される合同企業説明会に参加しましたが、なかなか興味のある企業が見つかりませんでした。そんな中、2、3年時の乗船実

習のことを思い出しました。実習中に、特に興味を持ったものとして航海計器がありました。この航海計器がもっと使いやすく、簡単で便利だったらいいと感じたことを思い出し、航海計器を作っている企業を受けてみようと思立ちました。目標が決まると自分自身にやる気が入り、勉強にも力が入りました。

この就職活動を通して、さまざまなことを感じました。特に、コミュニケーション能力は重要だと言うことです。普段から多くの人々と会話し、笑顔で挨拶が出来る人間は面接で強いのではないだろうかと感じました。また、殆どの企業から、面接で最近の気になるニュースを聞かれることが多く、普段から新聞やテレビのニュースを見る習慣も重要です。

私には大学に入ってから抱いた夢があります。それは、世界中で起こる海難事故の防止と水産資源の有効利用に微力ながら自分自身が貢献したいと言うことです。この夢の実現のため、私は、日本無線(株)(JRC)で日々努力したいと考えています。

## 悔いのない就職活動を

海洋機械工学科4年 中村 洋平

私が就職活動を始めたのは3年生の12月からです。

そうは言っても何から始めればいいのかかわからずに、暫くはインターネットの求人案内を調べたり、卒業生の就職先の会社の情報等を集める事から始めました。

そうして過ごしているうちに年が明けて1月になり“そろそろ本格的に動かないとマズイ”と焦り始めた時、本校で主催された合同企業説明会に参加しました。そこで私は、船舶に使われる冷凍・空調の施工管理等を手がける日新興業株式会社という企業に非常に興味を持ちました。

後日、会社見学に伺い工場の設備や製品についての説明をして頂きました。会社見学に参加して、私の以前からの希望である“将来はものづくりの現場で既存の製品や技術の改良及び新技術の開発に携われる様な仕事がしたい”という希望を叶えることができると確信しました。そして、5月に入社試験を受け内定を頂きました。

私は3年の夏から入社試験対策としてSPI等を始めていましたが、志望する企業を決めてからの約4ヶ月はより真剣に取り組みました。また、その期間に“自分は将来何をしたいのか”考えることが重要なことだと実感しました。これから就職活動をされる皆さんも自分の目標をしっかりと持って、悔いのない就職活動をして下さい。

## 就職活動のすすめ

食品科学科4年 伊達 梨絵

就職活動を振り返って、後輩の皆さんへの助言を中心に書かせていただきます。これをしたから絶対良いとは言い切れないので参考程度に読んで頂けた

ら幸いです。

私が就職活動を意識したのは2年生の冬頃です。私は特に食品業界に行きたかったので、食品業界の記事を新聞や本、インターネットで情報収集していました。また、一般教養本を読んで自己啓発に努めたり、就職活動中の先輩から話を聞いたりしていました。

私が就職活動において大事だと思う点は、何を「軸」にして就職活動を行うかです。「軸」とは、妥協できない点、その企業に入った後の自分が働く姿を想像できるかどうかかと思います。

説明会や面接では積極的に質問をして下さい。しかし、質の高い質問でなければ意味がありません。福利厚生や給与を知りたいのは山々ですが、企業の将来像や社会の中での位置づけなど、説明会では話されなかった企業側の課題や問題点をいかにうまく聞き出すかがポイントです。質問から得た情報は、志望動機を語る上で非常に役立ちます。

最後に、就職活動はよくいわれる「縁」もありますが「運」も左右するかと思います。上手くいかないからといって決して落ち込まず、前向きな気持ちで頑張ってください。

## 公務員対策について

生物生産学科4年 三好 博之

私は就職難と言われるなか幸運にも山口県の上級水産の職に就くことができました。そこで、これから受験を考えている皆さんに私の公務員受験の経験をふまえて少しお話したいと思います。

まず、私が受験において一番大切だと思ったのは、時間を有効に使いながら勉強を続けることです。公務員試験は多くの科目から出題されるので、得意な科目や勉強が点に結びつきやすい科目に的を絞っての勉強をお勧めします。私の場合、教養科目は数的処理を中心に、得意だった英語や理系科目、時事問題を勉強していきました。専門科目については、水産海洋ハンドブックと大学の講義ノートを何度も読み返しながら勉強しました。また、一般企業同様面接での評価が高くなっているのも最近の公務員試験の特徴と言えます。しっかり面接の対策も考えておくことをお勧めします。

公務員試験は出題範囲が多く倍率も高い狭き門ではありますが、計画を立て勉強していけば突破できない壁ではないと思います。私達は水産の専門である水産大学校で勉強して水産の知識を身に付けてきました。ここに関しては自信をもって勉強や本番に臨んでください。手短けでしたが少しでも皆さんの参考になればと思っています。

## 就職活動について

専攻科船舶用機関課程 田口 卓也

私が就職活動を始めたのは専攻科の4月からですが、正直言って何をやりたいといった明確な目標を持っていませんでした。専攻科の6ヶ月間における

乗船実習中に機関士としての勉強をしながら会社研究・自己分析を行い、自分が本当にしたい事が何であるかを考えていました。

私の場合、人や物を運ぶための商船よりも海上で様々な作業を行う調査船や特殊船に興味がありました。実習航海中に行われていた海洋調査で水産資源管理の重要性を認識し、海洋調査関係の仕事が出来る調査船の機関士になろうと決めました。幸い、鳥

取県の県調査船の船舶職員（機関士）の募集があり12月の中旬に内定を頂きました。試験内容は筆記試験・個人面接でした。

思案に随分と時間がかかりましたが目標をしっかりと見据えての行動ができたので満足 of いくものとなりました。就職は人生の大きな分岐点の一つですので後輩の皆さんにはよく考えて納得した上で自分の道を進んでほしいです。

## 大 学 祭

### 海燕祭を振り返って

2009年大学祭実行委員長（海洋生産管理学科3年）  
原 田 崇 大

私たち大学祭実行委員会が活動を始めたのは昨年4月で、今年度は特に1年生の勧誘に力を入れました。そのおかげかやる気のある1年生が多く入ってくれて、最高のスタートを切ることができました。その後は、地元はもちろん少し離れた場所にいる人たちも巻き込んで楽しい学園祭にしたいという思いから「波浪警報」というサブタイトルでいこうと決めました。海燕祭までの期間は準備はもちろん、地域の様々な祭典や行事（馬関祭、海峡花火大会、海峡ウォーク、吉見地区ふるさと祭り、海岸清掃等）にボランティアスタッフとして参加することで地域の人々との交流を大切にしてきました。

今年度のは海燕祭は、去年から大人気になりつつあるフードフェスティバル、女装コンテストが大きな盛り上がりを見せてくれました。また、例年、大学祭に合わせて行われている大学による公開講座も、大学祭との相乗効果で盛況であったと聞いています。

毎年期待されている吉本興業のお笑いライブでは、テレビによく出ているメジャーな方々が、ライブをして、それを見にたくさんの方が海燕祭に来て下さってとてもよかったです。今年度は新型インフルエンザの流行、2日目のお笑いライブのときの小雨、花火でのトラブルなどがありましたが、なんとか海燕祭を成功裏に終えることができたと思います。

先生方や先輩方、他大学の大学祭実行委員のメンバー、地域住民の皆様の御協力があったからこそ海燕祭が開催できたとスタッフ一同心から感謝しています。

来年は来年で今年度のは海燕祭とは違った、個性の光る、そして地域の方々にも楽しんでもらえる海燕祭にしてほしいと思います。

## 学生部だより ～各界で活躍する卒業生～

### 私の職場は築地市場

中央魚類株式会社 特種部特種一課  
水産情報経営学科58期 丸 山 徹

おはようございます。水産情報経営学科（現：水産流通経営学科）を卒業した丸山徹です。現在、私は日本一の市場である築地市場の卸売会社にあたる「中央魚類株式会社」で働いており、2年目になります。市場のあいさつは何時であっても、活気よく「おはようございます」です。これから私の仕事内容や現状、感想について書きたいと思います。

中央魚類は築地市場において1・2を争う会社です。つまり、日本全国にある卸売市場でトップクラス。少し大げさかもしれませんが、水産業界では知らない人がいないと言われるぐらいです。

「将来は魚市場で働いてみせる」これは私が中学生の頃に思い描いた夢で、高校卒業と同時に働きたいと思っていただほどです。しかしながら、水産業界について勉強してからにしようと思い直して水産大学校に進学し、在学中は友人とさまざまな土地に足を運んで話を聞く旅をするなど水産業界に関する知識を蓄えました。就職活動は当然のように卸売会社を中心に進め、出身地である札幌の魚市場に魅力的に感じながらも、やはり一度は全国でも有数の卸売会社

で働いてみたいと中央魚類へ勤務することに決めました。

中学校の頃から思い描いた魚市場への就職でしたが、はじめはやはり大変でした。朝が早い勤務時間、田舎の学生生活から一転した都心で友人がほとんどいない生活、大学の講義で聴いたのとは異なる魚市場の厳しい実情。そうした環境に飛び込み、いったんは自信を失いかけていましたが、上司や同僚たちに育てられ、徐々に慣れ、現在では上司から与えられた新たな課題を克服していっていると自負しています。

これまでの最大の課題は、入社2年目の昨年春から一人で複数魚種の担当を任されたことでした。まずは関係を持つ産地の荷主と仲卸業者の名前、顔、声



を必死で覚えました。現在では、冗談を交えながら頻繁な情報交換を行い、状況に応じた商売を成立させております。

就職した今、あらためて水産大学校について考えると、自然が豊かで都会ではできない貴重な経験ができたと思います。また、海や漁業地区に近いという立地から、漁場や市場などに行くことが容易で、頻りに現場の声を聞くことができました。目標がある人、これから目標を見つける人、いずれの人にとっても充実した学生生活を送れる学校だと思います。

ときどき母校に顔を出しておりますので、水産物流通に関心のある方は遠慮無くお声掛け下さい。

## 日本小型船舶検査機構

下関支部 検査員

海洋生産管理学科58期 半田 英一郎

私は、海洋生産管理学科を2008年3月に卒業し日本小型船舶検査機構（JCI：Japan Craft Inspection Organization）に就職しました。検査員となり最初の勤務地は福岡支部でしたが、本年2月より下関支部に転勤となり、大学時代に過ごした下関地区ばかりではなく、山口県内を小型船舶検査で飛び回っています。

小型船舶を検査することは、船舶の安全性を確保するため、船舶の構造、設備、機関などその構造が、天候、波浪に十分耐えることができ、万一海難に遭遇した場合にも、人命の安全確保ができるように救命・消防設備など必要な設備が備えられることを「船舶安全法」により要求されおり、その要件を満たしているか定期的にチェックすることです。

JCIとは、国（国土交通省）に代わって小型船舶の検査事務等を行う機関として1974年に設立され、1987年には民間法人化となり、現在に至っている法人です。本部は東京都千代田区にあり、全国33箇所の支部を有し、約230名の検査員が在籍する組織です。平成20年末現在で、当機構の検査対象船舶は約41万8千隻となっています。ちなみに、下関支部では、検査員5名、検査対象船舶は約1万4千隻です。

業務の内容としては、小型船舶の検査事務のほか、2002年から登録測度事務、2005年からは「海洋汚染等防止条約」の発効により、小型船舶用機関で130kWを超えるディーゼルエンジンを対象としたNOx（窒素酸化物）の放出量確認等事務が加わりました。さらに、小型船舶の堪航性、人命の安全保持に関する調査、試験及び研究業務なども行っています。

現在、JCIには私の他に、水産大学校卒業生の検査員は2名です。私自身、海洋生産管理学科から専攻科には進学せずに卒業し就職しました。毎日、船体の図面を読み取ったり、船舶力学に関する計算をしたりと、まだまだ船舶工学に関する知識を学ぶ必要があると感じています。しかし、学生時代から漁船、小型船舶やプレジャーボートなどに興味があり、講義を受けた漁船の安全学や運用学・航海学に関する科目がとても参考になっています。

後輩の皆さん、来年度の募集がJCIのHP上で公開されています。小型船舶や船舶工学などに興味がありましたら、検討してはいかがでしょうか。一緒に働きましょう。



## 「水産の未来を担う貴方達へ」

(財)日本冷凍食品検査協会 横浜試験センター  
微生物試験課

食品化学科58期 佐藤 千穂

私は2008年に食品化学科（現食品科学科）を卒業し、現在は（財）日本冷凍食品検査協会でも働いています。会社では輸入食品等の微生物検査や衛生検査の告示法に関する検証を主に行っている他、大学での実験や卒業研究で行ったアレルギーの検査、魚介類の鮮度検査なども担当しています。食の衛生管理に対する注目が高まりつつある世の中で、世界中で安心かつ安全な食品が流通出来る環境作りを目標に掲げ、日々勉強しながらの毎日です。

“チャレンジ”これが人生で最も大事な事だと思います。今は一見無駄と思われる事でも逃げずに根気強く挑戦し、多くの体験をする事で新しい知識や貴重な出会い、更には今までとは違った価値観を習得でき、その事が自らのポテンシャルを広げるきっかけになるからです。私の場合、航海中の船上という限られた空間の中で汚染から食品を守る事の大切さを教えてくれた乗船実習や、水産庁と保健所でのインターンシップが一つの大きなきっかけとなり、食品検査業界への舵を切りました。水産大学校はチャレンジする機会に恵まれている所です。そしてその経験は就職活動、ひいては人生という戦場で自分だけの武器となるはずです。

最後に、同僚として皆さんと一緒に働ける日を心よりお待ちしております。チャレンジ精神旺盛な水大生の更なるご活躍を期待しております。







# 水大学園だより

独立行政法人水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 今年度の抱負

校長 山元 憲一



教員の推薦により校長に就任して、早くも1年半が経過いたしました。この間、本校の将来を見据えて、学生の教育・研究および卒業後の活躍をより実り多いものになることを念頭に日々努めている所です。

昨年度は、7月からは、学生部を「学生課」「教務課」「学生支援課」の3課

体制とした改組をスタートさせて学生生活・教育の全般にわたる学生への支援を充実させ、学生課に「就職統括役」を、教務課に「入試統括役」を設置して、学生募集と就職活動の支援を強化充実させているところです。今年度4月には、学生諸君と一体となった学生部とし、学生支援をより充実したものにしてゆくため、学生部を事務棟1階から学生講義棟1階に移転させました。これで、種々の手続き、教務に関する相談、就職に関する相談にと、昼休みや授業の合間に気軽に利用できる環境を整えることができたと考えております。同時に、新しく移転したこともあり、明るくて広々した部署となりました。これを機会に心機一転、さらに充実した学生部に向けて運営してゆくことにしています。

新しいニュースとして、今年4月には、「実習教育センター」を設立させました。設立の経緯は、独立行政法人水産大学校としての二期目の重要な課題として、平成19年12月に閣議決定された「独立行政法人整理合理化計画」において「設置目的に沿った重点化等による講座数の削減等を平成21年度以降に実施する」とされていることに基づいて、教育体制の重点化を図ってほしいです。実習教育センターでは、従来各学科で講座外実習として行われていた2隻の練習船および2箇所の実験実習場を利用し

た実習を一元管理すると同時に、実習内容を再検討し、本校が掲げている「実学教育」をより充実したものにすることを目的としています。体制は、センター長のもとに、実習管理役として海洋生産管理学科教授および海洋機械工学科教授の2名が併任し、主に航海と機関を担当とし、その基に練習船の専任教員4名を配置し、実習管理係として練習船に習熟した練習船の前事務長を係長として配置し、練習船2隻および実験実習場2箇所を含めたものとしています。詳しくは、本校のホームページをご覧くださいければと思います。現在、3期目（来年4月以降）からの本格的稼働に向けて、センター長として私が併任し、内容の充実に向けて努力しているところで

す。一方、講座は、各学科ともに3講座から2講座とし、各学科の教員も2講座に所属するように配置換えを行いました。「水産流通経営学科」は、「流通経営講座」と「水産基礎講座」とし、流通経営に関する教育を充実させると同時に、「水産基礎講座」では全学科の学生を担当し、教養教育を充実したものにすることを目的としています。海洋生産学科は「海洋生産運行学講座」と「資源管理学講座」に、海洋機械工学科は「船用機関学講座」と「海洋機械学講座」にして、両学科では海技士教育を行うことを明確化すると同時に、これを支える水産に関する教育も十分行うと同時に、資源管理あるいは海洋機械に関する教育を行うことを明確化いたしました。食品科学科は「食品安全利用学講座」と「食品機能学講座」に、生物生産学科は「生物環境学講座」と「資源増殖学講座」にして、両学科とも学科の目指す教育をより明確化いたしました。このように、3期に向けて、目指す本校の教育目的を明確化し、教育体制をより特化、充実したものとしています。

これからの時代に即した教育を行ってゆくため、以上のように体制を整えた次第です。これからは、さらに充実したものとして、教育効果を上げ、社会の要請に答える学生を育て、高い就職率を維持するだけでなく、学生の希望に添ったものにしてゆくように努力してゆく所存です。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

水産流通経営学科 講師 大谷 誠

平成22年3月1日付けで、本校に着任いたしました。これまでは、東京水産大学を卒業した後に、

横浜市にある水産総合研究センター中央水産研究所において研究開発職に従事しておりました（某大学中退など放浪した時期もありましたが、当時のことは恥ずかしいので省略）。つまり、本校への着任は、教員生活のスタートであると共に、はじめての地方生活ということになります。このため、研究活動に

左側が  
学生と  
地域  
イベント  
のお手  
伝い。



おいては、漁村地域との距離が近くなることから、より接近したフィールドワークを行いたいと考えています。申すまでもなく、水産業は漁村地域における基幹産業であり、そこに暮らす人々の重要な雇用機会となっています。このため、水産研究は産業研究であると同時に、地域研究であることが必要と考えます。実際に、今日の水産政策においては、産業政策だけでなく地域政策的な部門の強化が図られているところです。これまで、私なりに漁村地域への接近を試みながら、水産業を経営経済的な側面だけでなく、地域社会的な側面を踏まえて調査分析してきたつもりです。しかし一方で、サラリーマンの家庭に生まれ、都市部でのみ生活してきた私に、漁村地域の実態を理解できているのかと自問自答することも多くありました。今後は、本校の恵まれた立地条件を活かして、漁村地域における社会の成り立ちや経済の仕組みを実証的に分析し、水産業や漁村のあり方を考えていきたいと思えます。

また、教育活動としては、学生が自らの問題意識を醸成して、主体的に物事を考えていける環境を整えていきたいと思えます。僭越ながら、複雑化する現代社会を生きていくためには、世論に流されるままではなく、自分自身で考えて判断できる社会人になることが必要と考えます。とくに、縮小傾向が続く水産業の将来を背負う本校の学生には、従来の枠組みにとらわれない発想力や実行力が求められてくるでしょう。これまでのところ、本校の学生は、とても真面目で素直という印象を受けています。今後は、学生自らが、知的好奇心と批判的精神を発揮して、積極的に議論できるよう働きかけていきたいと思えます。これからも、研究活動及び教育活動に精進いたしますので、皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

## SEAFDEC 小型漁船安全性会議

海洋生産管理学科 准教授 川崎潤二

2010年4月20日～23日の4日間にわたって、タイの東南アジア漁業開発センター訓練部局(SEAFDEC T.D.)において開催されました、第2回小型漁船安全性会議(2nd Regional Technical Workshop on Safety at Sea for Small Fishing Boats)に出席しました。本会議には、SEAFDECのメンバー国である日本とASEAN諸国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシ

ア、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナム)の代表者、それに東ティモール、太平洋諸島の代表者、また各機関から水産大学校以外に、東京海洋大学、水産総合研究センター、FAO(世界食料機関)、BOBP(The Bay of Bengal Program-Intergovernmental Organization)、タイ国海軍、タイ国水産局、カセサート大学、SEAFDEC事務局などが参加し、SEAFDEC加盟国の小型漁船の安全対策に関する現状を明らかにし、今後必要な対応策について共通の認識を所有することを目的に開催されました。

東南アジア地域諸国における小型漁船の安全性について、国際レベル、地域レベルの取り組みを参考にし、各国の漁船の登録や定義、安全性に関するガイドラインの策定、教育・訓練の推進状況が確認されるとともに、各国の協力関係や情報交換のネットワークを構築し、漁船漁業の安全性改善に貢献することも確認されました。会議は3日間で構成され、初日はFAOをはじめとする各機関から漁船漁業の安全性に関する規則や取り組みの紹介が、また2日目は各国代表者による小型漁船の定義や操業海域、事故内容や件数、漁業者の安全性意識や救命設備の設置状況などの説明がありました。3日目はグループディスカッションを経て結論と勧告がまとめられました。最終日の4日目はエクスカージョンで、SEAFDEC近郊の魚市場や漁船造船所の見学を行いました。

会議では、漁業の重要性、各国における漁業に対する価値観が、東南アジアという地域性の中で共有できることで、今後、東南アジア諸国の漁業の発展が急速に成し遂げられるという感想を持ちました。

水産大学校練習船によるSEAFDECとの継続的な国際共同調査は、今年度も11月にベトナム沖での実施が計画されるなど、SEAFDECと連携した活動は、学生が水産に関する国際的な感覚を身につけることができる機会として有効に活用されています。アジア漁業の発展、という地球規模での活動の中で、これからの日本の漁業の在り方や将来像に関しても得られる知見は多く、学生が積極的に参加できる国際交流の場を設定するなど、微力ながら協力していけたらと考えています。



## 着任のごあいさつ

海洋機械工学科 講師 大原 順一

この4月に講師として海洋機械工学科に着任いた



しました大原順一です。着任以来、慌ただしく時間ばかりが過ぎ、気が付くと山陰本線沿いに植えられたカンナが赤や黄の蕾をのぞかせる季節に遷り変わっていました。少し遅くなりましたが、着任のごあいさつならびに自己紹介をさせていただきます。

こちらに赴く以前は、九州大学で博士取得した後の13年間、静岡県にある沼津工業高等専門学校で電子制御工学科に勤めておりました。沼津高专では学科の主幹教育となる自律知能ロボット開発教育、ネットワークのコア技術に関する教育、加えて私の専門分野に関係する伝熱工学、熱力学、工業力学、エネルギーと社会等を担当しておりました。また、科目以外の教育では、学生副主事として主に学生支援システムの構築・立ち上げに参画し、学校教育とは、信頼・善意の上に成り立っており、主役である学生の全人教育・育成が何より中心に据えられるべきであるということ強く意識出来る経験をさせて頂きました。世の中はサッカーワールドカップで盛り上がっている最中ですが、私はよく、学生がメインのプレイヤー、教職員は監督やコーチ、そして保護者の皆様・同窓会の皆様をサポートするという役割で、学生が主体性を持って意欲的にプレー（学び、成長）できる場が学校だと喩えて考えております。私自身はやはり水産大学校においても、監督/コーチとして学生を激励しつつ、世の中に船出していく水産人の育成に力を注いで参りたいと思っております。

実は私、海洋機械工学科の前身である機関学科で学生として四年間学びました。卒業は水産学の学士が認定された年の第四十二期の卒業生です。18年振りの母校は私が学んだ頃とは随分と変わっており、新造された練習船、図書館、実験施設、特に講義棟は私立の大学かと思ふばかりの素晴らしい施設で、学生諸君も快適に学業に打込んでいるのだろうと想像しています。学生諸君ばかりではなく、講義を行う私自身も素晴らしい環境であることを実感しています。講義は先ずは「水産冷凍工学」を担当させて頂いておまして、講義内容は基礎的な冷凍冷蔵ならびに空調技術に関するものですが、この科目には、冷凍は水産における食の安全/安心の確保に始まり高品位水産物の供給に到るまで不可欠な技術であることが背景としてあることを、常に言葉の端々に含めて講義していきたいと思っております。

学生であった当時、海技実習が行われた7月の夜空に生まれて初めて全天を横切る美しい天の川を見た感動は今でも忘れられません。田舎故に学生諸君は刺激が少なく多少退屈さを感じるかもしれませんが、このように現代では得難い豊かな自然環境の中、ゆったりした時間の流れの中で、海洋に囲まれた水産立国日本の“水産について深く学ぶ”ことを一生懸命に行なって欲しいと願い、心からエールを送るとともに、私自身も水産に資する後進の育成に尽力したいと強く思っております。

## 下関フードテクノフェスタ2010の開催

食品科学科 准教授 宮崎 泰幸

平成22年6月5日土曜日に本校講義棟において、食品科学科主催で、下関市、山口県下関水産振興局、西中国信用金庫、(財)ちゅうごく産業創造センターにご後援をいただき、下関フードテクノフェスタ2010を初めて開催しました。今後の水産加工食品開発の戦略をテーマとした講演と鼎（てい）談を行うと同時に、本校で開発した水産加工食品関係の技術や下関地域の水産加工食品の展示を行い、地元水産関係者や市民のみなさん250名以上、本校の学生・関係者120名以上が来場しました。また同時に学科オープンキャンパスも開催しました。

基調講演として、日本経済新聞特別編集委員で前日本レコード大賞審査副委員長の野瀬泰申氏が「魚の缶詰を煮ますか？」のタイトルで講演を行いました。東北での鯖水煮缶詰文化や、青ネギと白ネギ文化圏の境界、カレーライスに生卵を入れるかゆで卵を入れるか、など地域による食文化の相違を紹介し、参加者は聞き入っていました。

講演の後、「所変われば、好みも変わる」；魚食を考えると題して野瀬氏、西日本食文化研究会主宰の和仁皓明氏、それに鷲尾圭司水産大学校理事長が加わり鼎談を行いました。味覚や食文化の地域による違い、食育の重要性、地産地消から地産都消へ、特色ある魚食文化に産地で触れよう、など多くの意見が交わされました。さらに本学科教員によるミニ講演なども行われました。

一方、本校の技術紹介としては、魚肉脂の量を簡単に測定する方法、冷蔵庫で40日間保存しても腐らない無菌魚肉の製造法、おいしい介護食・離乳食に最適のEPA入り蒲鉾の製造技術、刺身を美味しくできるアルコールブライン急速冷凍技術、これで魚を飼育すると魚の旨み成分や健康機能成分が増える発酵餌などのブースなどが設けられました。地元企業による水産加工品の展示としては、地元食材のフグ、ウニ、アンコウの肝、鯨などを生きた加工食品が数多く出品されました。

さらに、地元高校生が企画したふぐの骨を有効利用したラーメンや水産高校の実習で製造した鯖缶などが販売され、いずれも完売しました。



講演



技術展示



商品展示

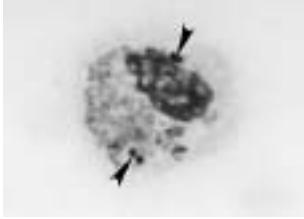
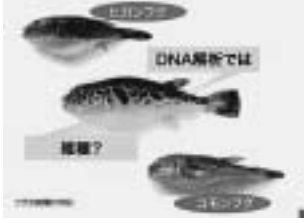
アンケートでは「展示ブースが少ない」といったご意見も頂戴しましたが、講演や鼎談では十分楽しまれた方が多かったようです。食品科学科では、こうしたイベントなどを通して産民官学の人たちが一堂に会することによって、地域水産加工業の発展と地産地消運動の一役を担えればと考えており、来年以降も開催を継続したいと考えております。

なお今回のフェスタの様子だけでなく、学科発信のさまざまな情報を学科ホームページで随時更新していますので、一度ページをご覧ください。

〈<http://www.fish-u.ac.jp/food/>〉

## 第3期中期計画に向けて 生物生産学科では

生物生産学科長 酒井 治 己



平成22年度は、独立行政法人水産大学校中期計画第2期5年の最終年にあたります。そこで、第2期の総決算と第3期中期目標策定に向けて、生物生産学科でもその取り組みを始めているところです。この重要な時期に、魚病学の泰斗である高橋幸則博士が定年退職を迎えられました。学科ではその穴を埋めるべくもなく、高橋先生に特任教授として講義及び指導の継続をお願いしたところ、快くお引き受け頂き、一同ほっとしている次第です。また、実に8年半ぶりに二人の新進気鋭の助教を迎えることが出来ました。これで第3期も充実したスタッフで教育・研究を行なっていけることになりました。

になりました。

近年、水産資源の持続的生産の実現のためには、対象となる資源のみならず、「里海」の保全、すなわち生態系の管理の重要性が指摘されております。こうした状況を踏まえ、生物特性と生息環境に係る教育分野を統合し、沿岸生態系の把握やそれに基づく資源の維持・管理と、種苗生産や養殖など飼育技術の向上に関する教育・研究を強化する必要性が高まってきました。

昨年度までは、生物生産学科は資源生物学講座、資源環境学講座、資源増殖学講座の三講座体制で教育・研究を行なってきましたが、それを以下の二講座に再編し、第3期中期に向けて体制を強化、整え

たわけです。

### ○ 生物環境学講座

海域環境とその生態系を守りながら、持続的な生産を行う「里海」の保全に向け、水産資源に適した海域環境の改善と水産資源の維持・増大のための方策を解明していくため、水産生物の生理・生態、繁殖特性や、水産動植物と環境との相互作用や再生産の仕組みについての教育・研究を行います。

スタッフ

教授－山元憲一（校長）、早川康博、須田祐輔：准教授－滝澤敬、野田幹雄、村瀬昇：講師－荒木晶、半田岳志：助教－阿部真比古（新人）

### ○ 資源増殖学講座

水産物の安定供給において増殖及び養殖の重要性が増しており、耐病性の高い種苗の確保や遺伝的多様性に配慮した放流等が求められています。そのため、水産生物の生体防御能、養魚餌料効果や遺伝特性等についての教育・研究を行います。

スタッフ

教授－上野俊士郎（研究科専任）、酒井治己：准教授－池田至、竹下直彦、近藤昌和：助教－高橋洋、安本信哉（新人）

この体制で、持続的生産を実現する上で必要な生態系管理といった新たな視点や、最新の増養殖技術に関する知識を持ち、増養殖や漁業生産等の水産現場にこうした技術の導入を促す上で、指導的な役割を担う人材を育成していく所存です。今後ともご支援、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

## 着任のごあいさつ

耕洋丸二等機関士 古谷 哲二



残暑の候、みなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

ご挨拶が遅れましたが、今春の人事異動にて水産総合研究センターから水産大学校耕洋丸へ異動してまいりました。

水産総合研究センターでは、機関士としてだけでなく人員の関係上、調査の補助として甲板上でお手伝いさせていただき、僅かではありますが、四方を海に囲まれた日本にとって漁業調査研究ならびに海洋調査研究を漁業調査船というツールを利用し、かようにやっているのかということを実体験させていただきました。

漁業調査船と漁業練習船では、その主たる目的や内容に若干の差がありますが、やっている内容は同じことと思いますので、微力ではありますが小職のできる限りにおいて実習船「耕洋丸」での勤務を通して、なにか貢献できればと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、みなさまのご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶申し上げます。

## 在校生の声

### 水産流通について学び、実業に活かす

水産流通経営学科1年 廣田 龍一郎

私の実家は下関の彦島で漁業を生業としています。

4月～9月は主に底引網漁を行っています。冬場は海が時化ることが多くなるので、10月～3月には底引網漁の他にワカメ養殖を行っており、私もそれを手伝っています。

ワカメ養殖はまずたね糸を育てる事から始まります。たね糸とはメカブを海水で満たした水槽に浸けて配偶子を取り出し、その配偶子を糸に付着させたものです。配偶子の発芽には一定の環境が必要なので今は養殖に使うたね糸は専門の業者がつくった物を使っています。たね糸が育ったら沖合で本格的な養殖に入ります。ロープにたね糸を巻きつけた物に浮きをつけ、それを水深10メートル程の場所に碇で固定していかだを作り、養殖を行います。このような養殖を9月下旬～10月上旬頃から始め、11月下旬～12月上旬頃に収穫が可能になります。収穫したワカメは玉網に入れて海に浸けておき夜袋詰めにして出荷します。このワカメは天然のワカメが採れるようになる2月ごろまで萩ワカメなどとして売られています。しかしワカメの養殖業はとてもキツクワカメ自体もそれ程値段のするものではなく需要も大きくないので担い手がどんどん減っています。

なので、私は流通経営学科で流通について学び彦島ワカメの流通を拡大していきたいと考えています。また、彦島ワカメだけでなく安全でおいしい下関の魚を全国に広めていきたいと考えています。

### 大学生活を楽しむ

海洋生産管理学科2年 竹口 佳孝

私は、自然に興味があり海のことを学べる海洋生産管理学科に入学しました。この学科の特徴は水産、海洋環境、船舶運航といった海洋に関わる様々なことが学べることです。いずれの学科でも学ぶことが多様なので、自分の中での関心事は、いろいろと変わることもあると思いますが、「自分が何をやりたいのか」を考え毎日を過ごすことは大切だと思っています。

また、私は端艇（カッター）部に入部しています。「カッター競技」とは、男子では全長9mの艇を12人で漕ぎ、ゴールの着順を競うものです。カッター部は先輩、後輩を問わず、楽しく元気良い雰囲気です。天気の良い日に海に出ると最高に気持ち良いです。「カッター」について学ぶことで船に関する知識や経験も習得でき、将来にも必ず役立ちます。1年生の皆さん、11月に行われる西日本新人カッター競技大会と一緒に出場してみませんか。兼部でも大歓迎です。講義棟1階の階段近くに設置してある部活関係のホワイトボードの案内を見て連絡してもらおうか、正門を出て右方向に

ある棧橋に放課後、直接来てもらってもいいです。端艇部に入部すれば、大学生活をより楽しく充実したものにすることが出来ます。

### 水大で得たもの

海洋機械工学科4年 河合 利菜

機関士になりたい。幼い時からロボットや車など男の子が遊ぶような物が大好きだった私は、いつも他の人とは違う職業に就きたいと思っていました。機械を扱うなら大きな船体に大きなエンジンで海を駆け抜け、日本の貿易を支える船に関わる仕事をしたいと夢を抱き、水産大学校海洋機械工学科に入学してから3年半が経とうとしています。

私はヨット部に所属しておりますが、今まで海に全く接する事のない環境で生活してきた私にとって自然の素晴らしさや怖さなど様々な経験をすることが出来ました。また部活動を通じて今まで一緒に頑張ってきた仲間との繋がりの大切さを知ることが出来ました。

さらに試合の応援に来て頂いたり、部会などの懇親会を始め様々な場面における交流を通じて、ヨット部を陰で支えて頂いている卒業生の方々の熱意を感じることが出来ました。

卒業後は専攻科船舶用機関課程に進学を希望しています。今年の5月には1ヶ月の乗船実習があり、多くの事を学ぶ事が出来ました。

乗船実習中は、「1回の当直に入るごとに1つは何かを得る」を目標に過ごしました。百聞は一見に如かずのことわざの通りこの3年間授業を中心に勉強してきた私にとって頭の中の知識でしかなかった事が、実際に見て、触れて、感じることによって今後の勉強や実習にさらに役立つ事が出来ると思いました。

10月からは半年にわたる遠洋航海実習が行われます。実習期間が長いという事もあり、今まで以上に大変な事も多いと思いますが、どのような事が学べるのか今からとても楽しみにしています。そして残りの大学生活は、学生生活を楽しむと共に機関士に関する知識や技術を身に付けるために、勉学に励み充実したものにしていきたいと思っています。

### 研究室巡り

食品科学科1年 浅野 真之

私は普通科高校の出身で、水大校には進路指導の先生の強い勧めもあって入学しました。

水産はあまり縁のないものだと感じていた私には、先生が勧める理由がよくわかりませんでした。

そんな時、授業で鷺尾理事長が「研究室巡り」をご自身が新入生の時になさっていた事を知り、元々大学院への進学を考えている私は（進路の参考になるかな…）と思い研究室棟を訪れました。一人では研究室に入りづらかったので担任の原田先生に引率して頂きました。そして私は福島先生の研究室を訪

れました。

原田先生が私の紹介をなさってから福島先生や研究室の先輩方が研究の内容を教えてくださいました。それはとても分かりやすく面白くて（水大校ってこんなにすごいんだ…！）と、感動するものばかりでした。そしてこの後も私は研究室巡りを続けました。

どこの研究室も優しく丁寧に研究内容を教えて下さって、私のポテンシャルを高めてくれる先生が沢山いらっしゃいました。

学校でも、先生や研究室の先輩が声を掛けてくれて、人間関係もとても豊かになりました。今では胸を張ってこう言えます。

「水大校に来て本当に良かった！」

## 入学して一年半を振り返って

生物生産学科2年 小澤幹生

水大に入学して早くも一年半が経とうとしています。

振り返ってみると「あっという間だった」の一言です。大学入学当初、親元を離れての一人暮らし、温暖な本州の気候など慣れない環境の中で毎日クタクタになりながら日々を過ごしていました。しかし楽しい講義やサークル活動、休日に友人たちと行く釣りといったもので毎日を楽しむことが出来たのではないかと思います。僕はダイビング部に所属していますが、今まで自分の中で未知の世界だった海中の生物や雄大な自然といったものを初めて間近で観察したりすることができたときの感動は忘れることができないくらい印象的なものです。大学の講義は高校時代とは違い、どれも専門的な分野ばかりでとても興味をそそられました。さらには、大学

での実習や、アルバイトなど高校時代まで経験したことがなかったことを経験し共同生活における協調性の大切さ、空いた時間の活用の仕方などを学んだ気がします。残り二年半、より充実した大学生活を過ごすことができるよう日々精進していきたいと思っています。

## 私の研究生活

水産学研究科1年 古田和也

この春に、水産学研究科に進学した古田和也です。現在、私が行なっている研究に関して簡単に紹介しようと思います。

ヒ素と聞くとほとんどの方が、毒として認識していると思います。しかし、同じヒ素にも有毒の化合物と無毒の化合物が存在しており、海産物中にはほとんどが無毒の化合物として存在しています。また、ヒ素は必須微量元素のひとつですが、その働きについてはあまりよく分かっていません。そのため私の所属する研究室では、食品の安全性と機能性の観点から、海産物中のヒ素化合物の分布と形態について高性能な分析機器を用いて分析し、研究を行っています。

ヒ素化合物には水溶性のものと、水に溶けない脂溶性のものがあり、脂溶性ヒ素化合物の研究はあまり進んでいません。また、タラの肝油にDHAと同じ構造のヒ素化合物が含まれているという論文が最近発表されました。そこで私は、タラやサメ肝油などの、健康に良いと言われる魚油に含まれる脂溶性のヒ素化合物について分析し、ヒ素の機能性、形態についての新発見をしたいと思いながら日々、実験に取り組んでいます。

## クラブ紹介

### 女子カッター部

女子カッター部部長  
水産流通経営学科3年 池永佳乃

端艇部は、水産大学校において伝統のある部活があります。そして、女子カッター（端艇）部は今から10年前、有志により結成されました。当時、女子部設立にあたり様々な苦労があったと聞き及んでいます。私たちは今、そのような苦労を理解し、受け継ぎ、カッターを漕いでいることをとても幸せに感じています。

カッター競技とは、一般の部では9mカッターを用いて海上2000mを、女子の部では6mカッターを用いて1000mを漕ぎ、競争するものです。試合ではクルーが一致団結してゴールを目指します。試合は年に二回、西日本新人カッター競技大会と全日本カッター競技大会があり、新人戦・全日本ともに優勝経験があります。女子が漕ぐ6mカッターでは漕ぎ手6人、艇指揮及び艇長の8人でクルーが構成され、艇指揮の声にあわせて漕ぐというものです。海の風をきり、6人全員でオールがぴったり合うと、気持ちいいほどにカッターは進みます。また、

オールが合っているとき、クルー全員の心がひとつになったと実感します。そして、海を相手にすることは、天候にとっても左右され、練習中に海の状況ががらりと変わることもあります。しかし、そんなときでも日々の練習により、経験を重ね、操船上の判断をし、行動に移します。クルー同士の信頼関係、仲間意識がとても高まるのもカッターの魅力です。

今、女子カッター部は人数が足りず、十分に練習ができていない状態にあります。カッターは、伝統を感じられて自分を成長させることの出来る、そんな競技です。自分を変えたい、何かしたいと思っている人は、その何かにカッターを選んでみてください。絶対、有意義な大学生活が送れると思います。自分の限界を超えたとき、それは自分が成長したときです。これを読み、少しでもカッターに興味を持ってもらえたらうれしいです。

これからも、今カッターを漕いでいるこの環境を作ってくさっている先生方、先輩方に感謝をし、そして先輩方の意志を受け継いで、再び優勝を目指して頑張っていきたいと思っています。

# 学生部だより

## 平成21年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 前田和幸

本校では学内に「就職対策検討委員会」を設置して学生の就職支援を行っています。委員会は、委員長(学生部長)と各学科長及び1年生～3年生のクラス担当教員からなる委員で構成され、事務局として学生課がこれを補佐しています。

主な活動は、(1)3年生を対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストを含む専門講師による就職ガイダンスの開催。(2)就職手引き書「大学生のための就職応援ブック」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導を行う。(3)各学科の就職担当者及び学生部職員が、水産関連会社・団体等を訪問し、本校及び本校学生の紹介を行うとともに、企業

等の採用情報を把握する。(4)毎年1月末に、合同企業説明会を実施等です。特に、今年の1月30日(土)に開催された、本科3年生と専攻科進学予定の4年生及び研究科1年生を対象とした合同企業説明会には、採用実績のある企業76社143名の参加があり、この不況の中、過去最高の参加数でした。

このような活動の結果、3月31日現在における平成21年度卒業・修了者276名(本科206名、専攻科51名、研究科19名)の就職率は95.7%で、このうち水産関連分野に77.4%が就職しました。平成21年度は不況の影響を受け、大変厳しい就職状況が予想されたにもかかわらず、例年並みの高い就職率を維持することができました。

なお、本科、専攻科、研究科における進路状況及び進学・就職内定先は別表のとおりです。

## 平成21年度卒業・修了者の進路状況

平成22年3月31日現在

本 専 攻 科 研 究 科	卒業 者 数	進学関係					水産関連分野							そ の 他 分 野	(1) 水 産 関 連 就 職 率	(2) 就 職 率				
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	研 究 生 等	計	国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	各 種 団 体	水 産 ・ 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	資 機 材 供 給 等				計			
水産情報経営学科	男	15	2			2	4			2	1	4		3	10	1	90.9	100.0		
	女	5				1	1				1	2			3		100.0	75.0		
	計	20	2			3	5			2	2	6		3	13	1	92.9	93.3		
海洋生産管理学科	男	40			26	2	28			2	1	5	1	1	10	2	83.3	100.0		
	女	7			3	1	4						1	1	2		33.3	100.0		
	計	47			29	3	32			2	1	5	1	2	11	4	73.3	100.0		
海洋機械工学科	男	33		2	26		28						5	5			100.0	100.0		
	女	5	1		2		3						2	2			100.0	100.0		
	計	38	1	2	28		31						7	7			100.0	100.0		
食品科学科	男	32	3	3			6					8	7		15	10	60.0	96.2		
	女	28	3	2			5			1		8	8		17	4	81.0	91.3		
	計	60	6	5			11			1		16	15		32	14	69.6	93.9		
生物生産学科	男	30	2	2		1	5			3	6	3	5		1	18	4	81.8	88.0	
	女	11	2				2			1	3	1			1	6	2	75.0	88.9	
	計	41	4	2		1	7			4	9	4	5		2	24	6	80.0	88.2	
計	男	150	7	7	52	5	71			3	10	13	21	1	10	58	17	77.3	94.9	
	女	56	6	2	5	2	15			2	3	10	10		4	29	8	78.4	90.2	
	計	206	13	9	57	7	86			5	13	23	31	1	14	87	25	77.7	93.3	
専攻科船舶運航課程	男	23								1	2	2		6	1	4	16	6	72.7	95.7
	女	0																		
	計	23								1	2	2		6	1	4	16	6	72.7	95.7
専攻科船用機関課程	男	28								1	3	1		6	4	4	19	8	70.4	96.4
	女	0																		
	計	28								1	3	1		6	4	4	19	8	70.4	96.4
計	男	51								2	5	3		12	5	8	35	14	71.4	96.1
	女	0																		
	計	51								2	5	3		12	5	8	35	14	71.4	96.1
研 究 科	男	17									1	1	4	2	1	4	13	1	92.9	82.4
	女	2										1				1	2		100.0	100.0
	計	19									1	2	4	2	1	5	15	1	93.8	84.2
総 合 計	男	218	7	7	52	5	71			2	9	14	17	35	7	22	106	32	76.8	96.5
	女	58	6	2	5	2	15			2	4	10	10		5	31	8		79.5	92.9
	計	276	13	9	57	7	86			2	11	18	27	45	7	27	137	40	77.4	95.7

注：(1)(水産関連)÷(就職内定者) (2)(就職内定者)÷(就職希望者)

### 【水産関連分野の分類内訳】

- 各 種 団 体：水産に係る団体（漁業、流通、船舶等関係団体）
- 水 産 ・ 加 工：水産動植物の採捕又は養殖及びこれを原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者
- 水 産 流 通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者
- 海洋水産・調査開発等：海洋水産関連の調査会社
- 資 機 材 供 給 等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者等
- そ の 他：水産業関連以外（公務員・団体・企業）

平成21年度卒業生進学・就職状況一覧表

平成22年3月31日現在

◎進学(大学院等)	NTT-WE マリン	商船三井	日本無線
帯広畜産大学大学院	昭陽汽船	ショクリュー	ノースイ
北九州大学大学院	アルク	新和海運	博多魚価
群馬大学大学院	アラハタ	スターゼン	はごろもフーズ
水産大学校研究科	イノガストラスポーツ	セイショーフーズ	八馬汽船
東京海洋大学大学院	イカリ消毒	大京魚類	花水木コーポレーション
東北大学大学院	池田糖化工業	大熊本証券	浜松魚市
長崎大学大学院	イコース	大水	ハローデイ
広島大学大学院	一番食品	大光食品	久原本家
北海道大学大学院	出光タンカー	太平電業	日正汽船
山口大学大学院	ウイングマリタイムサービス	太平洋汽船	富士物産
◎就職(官公庁)	魚喜	大洋日本汽船	フジミツ
茨城県	大牟田信用金庫	タカノブ食品	ホクガン
上天草市	オタフクソース	拓洋	ボゾリサーチセンター
延岡市	尾鷲物産	タマノイ酢	ホンダ水産
広島市	海生ムサシ	中央魚類	マリンハイドロテック
広島商船高等専門学校	海洋建設	デリカウイング	丸久
福島県	金子産業	洞海マリンシステムズ	丸大食品
三重県	川崎近海汽船	東京計装	マルト水産
三重水産高等学校	河久	土佐鯉水産	三谷産業
山口県	九州郵船	トランス	武蔵野
◎水産関係等各種団体	キューレイ	内海曳船	武蔵野フーズ
(財) 群馬県環境検査事業団	共同船舶	内海造船	ムロオ
(財) 日本食品分析センター	共和産業海運	中島水産	山海食品工業
静岡県漁業協同組合連合会	キョーリン	名古屋製酪	山口銀行
(社) 大日本水産会	呉製網	成田養魚園	山崎製パン
(社) 日本海事検定協会	クニヒロ	西日本魚市	大和海運
水産総合研究センター	倉橋島海産	西日本フーズ	山野印刷
全国共済水産業共同組合	グリーン SHIPPING	ニチレイフーズ	ヤンマーエネルギーシステムズ
全国漁業共済組合連合会	栗林商船	日新興業	郵船クルーズ
日本小型船舶検査機構	グローバルオーシャンディベロップメント	ニッスイマリン工業	郵船商事
福岡県栽培漁業センター	神戸発動機	ニッソービバレッジ	雄洋海運
三崎漁業協同組合	コーラルシー	日本海洋事業	横浜冷凍
山口県漁業協同組合	極楽湯	日本クッカーリー	琉球海運
山口県漁業後継者育成事業	三英食品販売	日本クランクコルク	
◎民間企業	三徳船舶	日本食品	アイウエオ順
Area	サンヨーフーズ	日本石油マリンサービス	
CAC マルハニチロシステムズ	ジェイアール西日本商事	日本農産工業	

平成22年度入試状況

本校の平成22年度入試状況をお知らせします。

推薦・一般入試の志願者総数は816名で、昨年度より137名増加しました。昨年11月に実施された推薦入試には、全学科で163名の応募がありました。また、今年2月に実施された一般入試には全学科で653名の応募がありました。一般入試の学科別応募状況は、水産流通経営学科47名(募集人員12名に対する倍率3.9倍)、海洋生産管理学科88名(募集人員23名に対する倍率3.8倍)、海洋機械工学科88名(募集人員24名に対する倍率3.7倍)、食品科学科139名(募集人員27名に対する倍率5.1倍)、生物生産学科291名(募集人員18名に対する

倍率16.2倍)でした。

一般入試の過去5年間の推移は、18年度634名、19年度636名、20年度453名、21年度567名、22年653名でした。一昨年(平成20年度)は大幅な減少が認められましたが、今年度は過去5年間では最高の数字となりました。これは、募集要項を一部変更して受験しやすくするとともに、インターネットを用いた広報や高校訪問等の広報活動の強化を行った結果であると推察しています。今後も広報活動および入試制度の改善を通じて、本校の特色と個性豊かな教育方針を全面に打ち出し、受験生に魅力ある大学校となるよう一層の努力をしていく所存です。





# 水学園だより

独立行政法人 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 年頭所感

### 理事長 鷲尾 圭 司



「暑」という漢字が選ばれた年を過ぎ、あれだけ暑くても冬には冷えるものだと思います。しかし、寒さが過ぎれば春が来る希望もわいて参ります。

水産大学校においても独立行政法人になって二期中期計画の最終年度を終えようとしており、新たな第三

期中期計画に入ろうとしています。昨年は事業仕分けに翻弄され、政府の予算削減に締め付けられ、水産大学校らしい教育研究の維持に本当に苦労いたしました。しかし、水産大学校を大事に思ってください先輩たちや関係業界、そして本校に関わる多くの皆さまのご協力と励ましをいただいたお陰で、何とかこの難局を乗り越えられたと思います。まずもって御礼申し上げます。

時代が音を立てて変わっていく中で、若者の進路は厳しいものが予想されます。多くの大学で就職の見通しのつかない学生があふれ、社会に出ても安定した暮らしが確保できるか、不安ばかりの閉塞感があります。その中であって、本校の内定率は年内に80%を越えており、社会に要請されている実学教育が実を結んできていると強く感じております。

水産業界も厳しい状況ですが、国民に水産物という食糧を確実に届ける仕事は様々な関連業界も含めてなくなりはありません。先日東京の築地市場に向いたところ、夜明け前の寒い市場で懸命に働く卒業生たちに出会いました。今年入社したばかりの新卒生は、まだひょろっとして頼りなげに見えました

が、3年、5年と経験を積んだ先輩たちは、がっしりと厚い胸を誇るようにきびきび立ち働いて指示を飛ばしていました。水産大学校70年の歴史がそれぞれの職場に連綿と受け継がれ、その信用の積み重ねが若者の働き場所を提供し、さらに人間を育ててくれていることを実感し、本校の水産教育の意義をあらためて心に留めました。

話は変わりますが、本校には教職員の親睦組織として八潮会という集まりがあります。会費制ですが、グループごとに好みのメニューで交流を深めます。私は一泊旅行に参加し、出身地の京都をご案内させていただきました。一日目は嵐山の大覚寺と花灯籠というライトアップイベントに、二日目は六道の辻辺りと清水寺界隈を歩きました。いずれも前者はマニアしか寄らない穴場（地獄の入り口など）の静けさを味わい、後者は観光テーマパークでアリの行列を堪能しました。

京都が観光地として高い人気を保っているのは、こうした静と動のギャップを際立たせ、日常と非日常を強烈に感じさせてくれるからではないでしょうか。京都人は「一見さんお断り」のように冷たいと思われがちですが、本物は解る人と共感したいし、はしゃぎたい人は「どうぞ」と流します。決して遮断しているわけではないので、まずは勉強の仕方を教えてもらって近づけば、実に面白い世界だと思います。

水産の世界も海に出て魚を捕ってくる場面ばかりでなく、漁村から消費地に至る人々の営みや文化的背景も味わうと、その意義が深く見えてくると思います。第三期に向けて、水産人を志望してくれる若者を幅広く集め、その能力を実践的に鍛えていく体制を整えます。それには技能や体力も必要ですし、現代社会の仕組みや倫理観、人との接し方も重要です。教職員の総力をあげて取り組みたいと思いますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、本校へのご支援をお願いするとともに、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

## 最近の話題

### チューリヒの魚屋さん

水産流通経営学科 教授 中島 邦雄

平成22年8月1日から一週間、科学研究費補助金（科研費）を得て、スイスのチューリヒ市で資料調査を行いました。自分の専門分野（作家トーマス・マン研究）で貴重な成果が上がりましたが、その合間にドイツ語の授業でランデスクンデ（文化地

理）の教材として使う映像をデジカメで集めました。そのとき感じたことを述べさせていただきます。

チューリヒ湖畔の公園では朝市をやっており、色とりどりの鉢植の花が売られていました。その間を縫って公園に入ると、出口に近いところに魚屋さんの屋台がありました。あちらではこういう目的でキャンピングカーのような専用車が使われます。白を基調とした車のガラス越しには明るい照明の下、パックされたりプラスチック容器に入れられた魚

チューリヒ湖畔の公園に  
あった屋台の魚屋さん



の切り身がずらりと並び、その向こうでは白い服を着た太ったおばちゃんたちがエネルギーに動き回り、取り巻く客たちを相手に賑わっていました。これが水産版「白衣の天使」かと感嘆しましたが、それにしても魚屋さんの屋台が隣のパン屋さん同様、病院みたいに清潔な印象を与えるのが、いかにもスイスらしいと感じました。

アルプス山中で魚屋さんに出会えたのは幸運でした。ではどんな魚かと思つてのぞいてみると、ズキ科のザンダーなど種々の淡水魚の他、サケやサバなど海産魚も売り場の一角を占め、さらにエビや貝を使ったサラダやロールモップス（ニシンの塩漬けを巻いたもの）などの惣菜も前列に並んでいます。また黒板には「ボーデン湖産フェルヒェン（マスの一種）、新鮮」と走り書きされていますが、ここはチューリヒ湖。この車はひょっとして他の湖や、さらにはハンブルクまで買い付けに走っているのでしょうか？

日本との違いを感じたのは、この店には尾頭付きがひとつもなく、どの魚も切り身で、肉屋のハムや肉と変わらない感覚で売られていることです。値札を見るとそれを強調するかのようにしばしば「小骨なし」と書かれています。他方、外国産の魚には「ドイツ」などと産地が記されており、これは日本のスーパーと同様だと思いました。

ところで、「水産人」という言葉には、単なる水産の専門家にとどまらず人間社会一般や文化にも通じた社会人というニュアンスがあります。その専門と教養との橋渡しをするために、ドイツ語の授業でも学生には、彼らの愛してやまない水産の話題を織り込みながら行っています。チューリヒで魚屋さんを見かけたときも、これは使えるぞと小躍りしたのです。

## LED 等光技術を用いた 新型漁業技術の開発

海洋生産管理学科 准教授 毛利雅彦

「集魚灯」ということばで表されるように、魚は光に対し走光性を有することが知られます。光は、他の物理的な要因（音、電流など）と異なり実際の漁業に古くから用いられ人類は水生生物を集魚灯で集めた上、何らかの漁具・漁法により採捕することで漁獲（水産物の生産）をあげてきました。「集魚灯」として用いられる灯火は従来からメタルハライ

ドが多かったものの、近年は少ない消費電力で集魚に効率が良いという報告のある LED が用いられるようになってきました。

このような背景の中で、現在、LED 等光技術を用いた新型漁業技術の開発を目的に産学公連携という視点で水産大学校からは本部会議委員(中核機関責任者)・鷺尾理事長のもと、研究グループ（海洋生産管理学科・濱野学科長をトップに、川崎教員、梶川教員、中村教員および毛利）は県内の企業の事業化、オンリーワン製品の開発、更なるレベルアップを目指し、水口電装株式会社、山口県産業技術センターと連携してグリーンクラスターの事業へと取り組んでいます。

水産大学校としてはこの産学公連携を十分にふまえた上で、全国的にも本校でしか行うことのできないデータの収集および解析を通じて、水口電装株式会社製 LED の正確な集魚効果の確認、精度良い光環境データの収集などを実施することで上記の目的達成を目指しています。水産大学校で実施している具体的な内容などを、下記に示します。

テーマ1：既存集魚灯の集魚効果、メカニズム解明

LED 集魚灯は、消費電力が低いという特徴、水中において透過率や魚の視感度を考慮した特定波長の出力が可能で、しかし、海洋生物に対する光の影響は未解明な部分が多く、LED 集魚灯の効果的な操法が見出されていません。今までの研究は、生物の蝸集に対して効果的な LED 灯とはいかなるものであるかという機器開発に対する系統的アプローチが欠如していました。そこで、本テーマではまず LED 集魚灯の開発の第一歩として、機器の有効性を検証するための手法開発について、山口県の主幹漁業である棒受網漁業に適した新たな利用法の開発を目指しています。

テーマ2：魚群識別技術の開発

LED 等の集魚灯に蝸集する海洋生物の蝸集メカニズムを明らかにするためには、光に対する海洋生物の分布特性を解明するとともに、光に蝸集する魚群量を定量的に評価する必要があります。本テーマでは、LED 等の集魚灯に蝸集する海洋生物の蝸集メカニズムを定量的に明らかにするため、計量魚探機やソナー等による音響計測法とカメラなどの光学的手法を組み合わせた海洋生物の定量モニタリング技術を用いて、集魚灯に蝸集する魚群を3次元的に計測し、魚群分布、魚種、体長などの推定方法につ



水中仕様の  
LED集魚灯

集魚灯に  
集まったマアジ



いての解明を目的としています。

テーマ3：光技術を融合した新型漁法の開発

一例として、模型船による試作集魚灯の光学特性評価について記します。水口電装株式会社製集魚灯を作成、改良していく上で、模型船による試作集魚灯の光学特性、すなわち漁船周囲の光レイアウトについて検討を行います。水口電装株式会社が既に作成しているLED集魚灯の模型（1～2種類）および集魚灯漁法従事漁船の模型船を製作すると共に、水産大学設置の海水用簡易水槽を用いて、船体動揺特性と漁船周囲の光学の特性について実験を行っています。

上述の事業について、本部会議委員（中核機関責任者）を快くお引き受けくださいました鷲尾理事長はじめ水産大学の皆さまから多大なお支えをいただいております。ここに、心から感謝を申し上げます。

## 船用機械総合実験棟建設の完成について

海洋機械工学科 教授 中岡 勉

船用機械総合実験棟は、2009年度より計画され建屋が建設され、2010年度に内部設備が完成した。総面積約1300㎡の2階建てである。この実験棟は、海洋機械工学科の海技士教育の目玉となる実験・実習が出来る設備を備えたものとなっている。

前蒸気実験棟は、水産大学の蒸気タービンプラント教育のための施設と設備され、1977年に完成し、船舶職員法並びに関連法規の改正に伴い、甲種二等機関士（現三級海技士（機関））第一種養成施設としての要件を充足するために、設置されたものである。以来、約30年以上にわたり蒸気タービンプラントに関する教育を行っている。本校の教育は、蒸気タービン推進の練習船を所有していないため、蒸気タービン船の乗船実習に関しては社船実習に頼ってきた。このような中で、この新実験棟の建設は、これまで海技士の教育の実績と成果が、評価されたものと考えられる。

本校の教育の目的は、新たに策定した第二期の「中期目標」を達成するために、水産に関する学理及び技術の教授及び研究等を行うことにより、水産業を担う人材の育成を図るためであり、その事業運営に必要な施設を整備することにより、「中期目標」の達成を図ることにある。このようなことより、この新実験棟は、海技士資格の取得に必要な蒸気実験関連設備の外、近年の船員教育に必要な冷凍冷蔵設備実験実習装置、冷凍コンテナ実習設備、電気推進実験設備、水素エンジン実験室を含む設備などを設置して、教育環境の改善と教育の充実を図り、教育研究の高度化、効率化に対応するため、最新の設備を備えたものとなっている。

この新実験棟の位置づけは、海洋機械工学科の実験施設として、学生がより高度な教育研究を行い、知識の向上を図ること。また、機関当直三級海技士（機関）第一種養成施設として要件を備えた施設であり、蒸気タービン船実習の代替の陸上プラントとしての設備に対応できるように考慮されているこ



と。そして、次世代の教育として、近年の船員教育に必要な電気推進実験実習設備、漁船用機械の省力化と自動化実験実習設備などを設置して、専攻科の教育環境の改善と教育の充実を図ることがある。また、これからの利用活用としては、JICA、水産高校等との高体連携並びに企業向けの研修への活用など学外への開放にも考慮したものとなっている。

この新たな教育設備を使用する蒸気プラントに関する教育は、未来の水産・海洋技術者、機械技術者の育成にとって必要不可欠であり、また、現在、機械工学系での教育機関でもこのような教育が少なくなってきた中で、機械工学の基礎となる蒸気工学の知識を向上させるためには、このような教育は重要であり、今後益々必要になっていくものと考えられる。

海技教育の中の蒸気に関する教育は、現在のような経済状況の中で、蒸気タービン船の建造が難しくなっており、海技教育の伝承のためには、どこかの教育機関で、このような蒸気に関する教育を残すことが重要と考える。

最後に、この新実験棟の建設の完成に当たり水大関係者、特に水大施設課、船用機械総合実験棟建築委員会の関係者に多大な御協力して頂きました。深く感謝申し上げます。

## 着任のご挨拶

食品科学科 助教 杉浦 義正



学生の皆さんは、何を目標・目的として進学希望し、本校へ入学しましたか？ 明確なビジョン（理想とする自身の将来像など）とまではいかないまでも、ある程度のイメージは持っていますか。何となく周りが進学するから自分も、社会へ出てからは結局学歴（大卒という）が必要になるから、いやいや、水産・科学に大いに興味があるから等々、様々な動機を持っていると思います。

私は、もともと理科が好き（実験操作など実技は下手！）で、細胞融合などのバイオテクノロジーが飛躍的に向上した時期（いわゆるバイオテクブーム）だったせいもあり、とくに生物学に強い興味を持ち

ました。その流れでバイオ系を希望し、農学部へ進学しました。入学してからは、「大学は勉強するためのところ」と考え、可能な限り受講しました。研究室に配属されると、研究室単位での比較的少人数の活動が大半を占めるようになり、同級生との横のつながりではなく、先生や諸先輩（留学生や院生）との縦のつながりが強くなった為か、ヒューマンスキルを磨く良い場となりました。学生の皆さんも、研究室配属までの“横のつながり”は勿論、研究室での“縦のつながり”でヒューマンスキルを磨いてみてはどうでしょうか。否応なしに先生方や諸先輩と身近に接し、“縦のつながり”に対応していかなければなりません。学生のうちに意識しておけば社会人になってから役立つと思います。

私は、某大手証券会社が経営破綻するなど急激に社会情勢が悪化した時期に就職活動をしており、内定をもらうのに苦労しました。今の学生さんの大変さは、少しは分かります。当時、多くの学生は秋頃まで活動していましたし、私も8月に漸く内定をもらいました。ただ、早々と幾つかの内定を獲得した同級生もいて、彼らには明確なビジョン（目的意識）や考えをうまく伝える術、社会に素早く適応できるヒューマンスキルを持ち合わせていたことが共通しています。

学生の皆さんはこれから、若年期の二度と取り戻せない貴重な4年間を学生として過ごすことになります。ビジョンを持って社会に素早く適応するための助走期間とするか、漫然とした日々を過ごすか、はたまた研究者を目指して頑張るか！ 生かすも殺すもあなた次第です。そして私自身も、先生方や学生さんとの相互作用の中で自己を高めていく所存です。若輩者ではございますが、今後とも、何卒、宜しくお願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

生物生産学科 助教 山崎 康裕



平成22年10月1日付けで生物生産学科生物環境学講座に助教として着任いたしました山崎康裕と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。着任以来、新しい環境で学ぶことが多く、毎日が新鮮である一方、本校の所在地である吉見は私の故郷の福岡県糸島市と非常に良く似た自然環境であるためか、初めて訪れたにも関わらずどこか懐かしい雰囲気も感じております。私は、長崎大学水産学部を卒業後、九州大学大学院へ進学し、同大学院で赤潮発生機構に関する研究を行い、博士の学位（農学）を取得いたしました。その後、長崎大学水産学部に籍を置き、研究員として赤潮や海産植物由来の生理活性物質などの研究に従事して参りました。

赤潮による漁業被害が問題となり約半世紀が経過しますが、この間数多くの研究者がこの問題に取り組み、それらの成果が赤潮の発生件数を減少させて

きました。しなしながら、地球温暖化などによる環境変動が赤潮の発生原因を一層複雑なものにしていることから、現在もなお、赤潮被害を完全に防ぐことができておりません。特に近年、有明海で毎年のように赤潮が発生し、甚大な漁業被害が報告されていることは、皆さんの記憶に新しいことだと思います。このようなことから、私は「なぜ、ある種の植物プランクトンだけが単一赤潮を形成できるのか？」を解明するためにこれまで研究を行って参りました。その結果、赤潮の原因となる植物プランクトンは、競合する別種の植物プランクトンの増殖を抑制するための手だてとして、アレロパシー効果（ある種の植物や微生物が産生した有機物によって他種生物の増殖が促進または抑制される現象）を有しており、赤潮の消長にアレロパシー物質が大きく関与していることを現場で明らかにしました。

水産大学校では、植物プランクトンの生物多様性の仕組みや消長機構などを解明することにより、赤潮防除技術の開発に挑戦するとともに、アレロパシー効果を利用した餌料用微細藻類の効率的培養法の確立に挑戦し、水産養殖業の発展に貢献していきたいと考えております。一方、教育では実習・調査を通して現場に出向き、生物やそれを取り巻く環境を自分の目で確かめることの重要性を第一に伝えていきたいと考えております。また、講義の内容がどのような場面でどのように役立つのかを学生に理解・考察させることで、創造性豊かで水産現場での問題解決能力を備えた人材の育成に最善を尽くしたいと考えております。

まだまだ経験不足の若輩者ではございますが、これまでの経験を活かし実学に立脚した研究を進めるとともに、水産に貢献する人材の育成に誠心努力して参る所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 着任のご挨拶

天鷹丸通信長兼事務長 鈴木 昭博



昨年4月1日付けで天鷹丸通信長兼事務長として赴任しました鈴木昭博と申します。

前職は、独立行政法人水産総合研究センター研究推進部船舶管理課に配属され平素は、横浜のみなとみらいにあるクイーンズタワーまで通勤（陸勤）し全

国6箇所にある水産研究所所属船舶の通信長に欠員が生じたときに臨時で乗船するための補充船員として勤務しておりました。

船乗りとしてのスタートは、昭和61年水産庁に採用されたことから始まりますが、その間、今日まで陸上勤務を除き漁業取締船、練習船、漁業調査船と3年から4年の周期で船を渡り歩いております。

そのうち平成元年4月から平成3年5月までは、本校練習船3代目耕洋丸に二等通信士として勤務しておりましたので本校勤務は2度目となります。

19年振りの着任となりましたが、当時お世話になりました陸上職員、乗組員の皆様と再会することができ、また暫く振りに懐かしい下関弁も耳にして、本校勤務においては練習船の体系も存じていたことから着任後も戸惑いや不安もなく勤務しております。

ただ、本船は、建造から25年経過しており船齢も古く船内設備も時代のニーズに合っておらず、着任して驚愕したところは皆様周知の如く平成23年7月24日にアナログ放送が終了することから天鷹丸では、すでに地デジ整備が完了していると思っていたところ、未だ着手しておらず先延ばしにされ手付かずになっていたことでした。

しかも当年度の予算化もされておらず着任早々スタートから大きな課題が与えられました。

地デジ対策費も計上されていない中、いかに現状の船内設備を応用しながら必要最小限の投資で地デジ視聴を満足させるかを考えました。

差し当たり既存の設備に自分たちで手を加え船側で改修できるところは実施し業者へ依頼した場合の付帯工事の工数を少なくすることでTVデジタル化改修工事費用を抑えることに重点を置きました。

幸い前職において漁業調査船8隻のTVデジタル化予算要求に向けた見積額の算出、TVデジタル化設備仕様の検討にも携わった経験から業者より提出された天鷹丸TVデジタル化改修工事見積、仕様については3回の見直しを行い、チューナーやブースターを設置するラックも自分たちで改造し本格的な工事は、年度末に掛けてこれからですが、乗組員のご協力もあって工事費用を削減できたことは大変感謝しているところであります。

また陸船間の通信費においては衛星船舶電話と言う回線速度が非常に遅く通信料が高額な通信回線に依存しているため年間の通信費支出が多く、これが

運航費を圧迫しており、比較的国内航海が多い天鷹丸にとっては携帯電話を利用しない手はなく携帯電話が整備されていないことにも大変驚きを感じました。

携帯電話の導入にあたっては経理課のご理解もあり昨年7月から天鷹丸でも携帯電話を契約し携帯電話圏内では電話、データ通信（インターネット、メール）に切り替え、衛星船舶電話利用を減らし通信費削減に努めております。

天鷹丸は人間の年齢で言えば高齢者の仲間入りをしています。

搭載されている機器も延命のため途中で換装している機器もありますが寿命以上に使い続けている機器もあり搭載機器各メーカーも企業努力で部品調達には留意しているものの今では解散されてしまっている会社もある等、部品供給も困難な状況で在庫限りと言うところが多いため機器が故障してしまうと部品交換修理ができなくなる始末で結果として設備一式の換装となり後年、天鷹丸を使い続ける対費用効果を考えると設備そのものが老朽化してきましたので代船建造についても検討する時期に来ているのではないのでしょうか？

私は過去に取締船2隻、調査船1隻の代船建造委員も務めましたので、これらの経験を生かし本校、在任中に代船建造計画なるものが浮上すれば練習船建造の実績がありませんので是非、参画できたらと思っています。

経費削減、業務効率向上のため天鷹丸の担当分野で実施したい案件が、まだまだ山積しておりますが簡単にできるものから費用の掛かるものまで幅があります。

引き続き次年度に向けて皆様のお力、知恵をお借りして頑張る所存でございますので、今後とも、ご支援のほどよろしく申し上げます。

## 就職活動

### 就職活動を通して

水産情報経営学科4年 信夫 俊輔

私は、他の人のように具体的に何かやりたい仕事があったわけではなく、ある程度の待遇を保証してくれる会社ならどこでもいいと考えていた。今の会社に巡り合ったのは、昨年1月末の合同企業説明会だ。IT関係の会社ということで、文系の自分には厳しいかなと思ったが、水産物に興味があれば問題ないということと、水産物の原価管理システムやトレーサビリティシステムが主な業務なので、おもしろそうだと感じ、志望した。

受ける会社が決まっても、人前で話すのが苦手な私にとって、面接で自分の長所や学生時代の取り組みを話すのはかなり困難なことだった。初めのうちは暗記した内容を言うのに必死で、声や姿勢など、あらゆる面で駄目な対応をしていたようだ。

しかし、面接の練習を行っていくうちに、面接では「いかに自分を良く見せるか」が重要だと感じ、

いろいろと工夫した。その手段はいろいろあるが、わたしは「内容は簡潔に述べる」、「大きな声で発言する」というのを意識的にやるように心掛けた。その後の面接では、途中で答えに詰まったり、やや的外れかなという発言もしてしまったが、上記の内容だけはしっかりやりきれたと思っている。結果、内定を頂くことができ、人事の方からも「誠実で真面目な感じが伝わってきた」という評価を頂き、自分のやったことは間違っていなかったと実感した。

就職先を決めるに当たって、今後も厳しい状態が続くと思われるが、後輩たちもがんばって就職活動に取り組んでもらいたい。

### 就職活動追憶

海洋生産管理学科4年 山岡 祐太

『就職氷河期』私たち61期卒業生の就職活動は、そんな大変厳しい状況下で行われました。

私の就職活動は、専攻科に進学しないと決めた3

年次の11月からスタートしました。まず、自分がどんな職に就きたいかを考えたとき、漁業者の方が大規模な「漁具」を使って漁をするときの、迫力のある光景に感銘を受けたことを思い出しました。そこで、効率よく漁獲できる漁具を提供し、漁業者の方に喜んでもらう仕事がしたいと考え、漁具メーカーを中心に就職活動を行いました。その結果、漁網製造の元祖ともいえる西日本ニチモウ株式会社から内定を頂くことができました。

私の就職活動を振り返り、良かった点を挙げるならば、「自分はどのような仕事がしたいのか」＝「仕事への情熱」を、面接官の方に強くアピールできたことだと思います。すなわち、その会社の仕事内容に惹かれ、一所懸命になれる人材であることをうまく伝えられたことが、内定を頂けた大きな理由だと思います。

来年度の就職活動も厳しい状況になると思われる。しかし、自分がやりたい仕事に対する情熱をしっかりとアピールできれば、よい結果が得られるのではないのでしょうか。就職先の決定は人生の大きな岐路です。しっかり考え、悔いのないように頑張ってください。

## 就職活動を終えて

海洋機械工学科4年 高宮大樹

私は就職活動を始めた頃、正直なところ、具体的に何をすればよいのか分かりませんでした。とりあえずSPIの本で勉強したり、新聞を読んだりしていましたが、特に入りたい企業も見つかっていない状態でした。そんな中、1月の終わりに本校主催で行われた合同企業説明会に参加しました。そこでどのような企業があるのかを知り、また実際に企業の方に話を聞くことで、この企業に入ってこんな仕事に携わっていききたいという具体的な目標を絞り込んでいくことができました。

私が就職活動をしていて大事だと感じた事は、自分が入社したい企業についてしっかり調べるということです。どんな事業に携わっているのか、仕事内容はどうなのか。そして、何故その企業に入りたいのか、具体的にどんなことをしていきたいのかなどを考えてみて下さい。そうする事により自分の考えがうまく整理できて来ますし、それが面接対策にも繋がってきます。もし、就職したい企業に水大の先輩がおられるのなら、実際に話をしてみるのも良いと思います。私も先輩に具体的な仕事内容や現場の雰囲気聞いて、この企業でやっていきたいと思いました。また、面接で質問されそうなことも教えて頂いたので、面接への心構えもできました。

今は就職が厳しい時代だと言われています。就職活動を始める皆さんにも、当然プレッシャーが掛かっていると思います。私も、今期で就職できるのだろうかという不安が常にありました。しかし、毎日不安やプレッシャーに押しつぶされては身も心も持ちません。時には自分の好きな事をする時間を見つけてリフレッシュしながら、就職活動を一生懸命頑張ってください。

## 私の就職活動の理想と現実

食品科学科4年 倉本なみか

就職活動を振り返り、私が最初に抱いていた理想と現実のギャップを紹介したいと思います。

私は2年生の頃から先輩方に就活の話聞き、自分なりに考えをまとめてきたつもりでした。就活を始めた当初は、食品科学科でありながら、食品業界に対する興味が少なかったのが本音です。しかし自己PRや志望理由を考える過程で、自分が他の就活生と肩を並べられる、つまり自分を売り込む場所に自信をもって挑めるのが食品業界でした。

また地元就職(山口)にもこだわっていました。最終的には地元就職できましたが、実際は九州北部・岡山・広島まで足を運びました。なぜなら山口の食品会社が少なかったことと、面接に慣れるためです。もちろん面接に慣れるためでも、中途半端な気持ちでは受けませんでした。結果的に多くの企業に足を運んだことで、自分のスキルを上げることができました。

最後に私が就職活動を通して大切だと思ったことは、手間を惜しまないことです。2~3月は多くの企業で書類や説明会が重なり、手一杯という状況が多々生まれます。その様な状況で、何か一つ妥協してしまうと、後々同じ行動を繰り返してしまいます。どんなに大変でも、コツコツと努力を続けて下さい。その誠実な姿勢がいつか結果につながると思います。

## 就職活動を終えて

生物生産学科4年 濱田敏範

僕が就職活動を終えて、最も強く思ったことが二つあります。

一つは、就職活動を進める上で充実した学生生活を送れたかどうかは重要だと思いました。「充実」といっても、私生活全てが充実しているというわけではなく、一つの物事をやり抜き、そこから得られたものを自分の軸とすることが出来るかどうかだと思います。僕の場合は、学生生活の中で自ら様々な離島に赴き、島の文化、食、そして、島民の方々のコミュニケーションをとることにより、「食の重要性」、特に、海からの恵みである海産物の重要性、また、「人の話を聞く楽しさやその中で学べること」を身を持って感じました。このことから、「様々な人との出会うことができ、水産物を通して世の中の食を支えられる仕事をしたい」という思いを軸にしました。一つの軸があることで、企業選びや履歴書でも困ることなく活動できたと思います。

もう一つは、両親、卒論指導の先生など周囲の人々の支えで凄く助けられたことです。両親には僕が後悔だけはしないようにと精神的にも金銭的にも全面的にバックアップしてもらいました。先生には、履歴書の添削や各企業を受けるにあたって知っておくべきことなど様々なアドバイスをいただきました。このような支えとそれに対する感謝の気持ちで自分を奮い立たすことができたと思います。現

在は就職難で就職活動も厳しいですが、自分の成長出来る場だと思えば頑張ることができると思います。

## 就職活動について

専攻科船舶運航課程 岩永大 師

就職活動、それは、これからの将来を決める人生の分岐点です。最近では就職難と言われ、自分の志望する会社、職種にも就けないことがあります。それでも、自分の人生を掛けるのだから、悔いの残らない就職活動をしてください。そのためには、目標を持ってそれに進むことが大切だと思います。

私の場合、航海士になるという目標があり、専攻科に進学しました。乗船実習を通して水産のことに興味を持ち、水産界で活躍できる航海士になろうと決心しました。今年は、水産総合研究センターの募集があり、内定を頂くことが出来ましたが、正直言って運が良かっただけなのかもしれません。

私のように「運」が味方してくれることもありませんが、いつも味方するとは限りません。「備えあれば憂い無し」というように、どんな状況であろうと、それに対応できるだけの準備を怠らないことは大切です。思い通りに進まないこともあります。決して立ち止まることなく頑張ってください。

## 大 学 祭

### 海燕祭をおえて

2010年大学祭実行委員長(海洋生産管理学科3年)

道野純平

私たち大学祭実行委員会が活動を始めたのは昨年4月で、今年度は特に1年生の勧誘に力をいれました。そのおかげかやる気のある1年生が多く入ってくれて、最高のスタートを切ることができました。その後は、地元はもちろん少し離れた場所にいる人たちも巻き込んで楽しい学園祭にしたいという思いから「ride on wave まずはパドリングから」というサブタイトルでいこうと決めました。海燕祭までの期間は、準備はもちろん地域の様々な祭典や行事(馬関祭、海峡花火大会、リバーウォーク、吉見地区故郷祭り、海岸清掃等)にボランティアスタッフとして参加することで地域の人々との交流を大切にしていきました。

今年度の海燕祭は、去年から大人気になりつつあるフードフェイト、女装コンテストが大きな盛り上がり

りを見せてくれました。また、例年、大学祭に合わせて行われている大学による公開講座も、大学祭との相乗効果で盛況であったと聞いています。

毎年期待されている吉本興業のお笑いライブでは、テレビによく出ているメジャーな方々によるお笑いライブがあり、それを見にたくさんの方が海燕祭に来て下さってとてもよかったです。

先生方や先輩方、他大学の大学祭実行委員会のメンバー、地域住民の皆様の御協力があったからこそ海燕祭が開催できたとスタッフ一同心から感謝しています。

今年度大学祭の実行委員に参加した皆さんは、この経験を活かして個々が大きく成長して欲しいと思います。そして、来年度も引き続き大学祭実行委員として係わってゆく可能性のある皆さんは、今年度の反省点や来年度に向けての改善点を再確認して、来年度の海燕祭をよりすばらしいものにして欲しいと願っています。

## 学生部だより ~各界で活躍する卒業生~

### 鳥取県水産試験場 試験船第一鳥取丸

鳥取県水産試験場 沖合漁業部試験船第一鳥取丸  
機関学科45期卒 浅野真一郎

平成8年に専攻科船舶用機関課程を修了しました、浅野真一郎(機45)と申します。どうぞ宜しくお願いします。

十数年民間企業の経験を生かし、平成22年11月付、鳥取県水産試験場、試験船「第一鳥取丸(199GT)」機関士に任命されました。

鳥取県は47都道府県で59万人と一番人口の少ない県ですが、中国山地に山の幸あり、日本海に海の幸ありと、自然に恵まれたグルメの宝庫です。試験船では、その鳥取県沖合海域の海と魚の状況を常に把握するために、海洋観測、浮魚資源調査、底魚資源調査を行います。

母港の境港には、本船の他に漁業取締船「はやぶさ」が停泊しています。また、水産試験場、試験

船、取締船で卒業生が活躍していますので、ご紹介いたします。

写真左から、試験船航海士 柏木祐一郎(海57)、取締船機関士 竹内健(機54)、試験船機関士 西山大(機48)、水産試験場長 増田紳哉(増25)、小生です。

仕事の内容ですが、機関士であっても、アラフォーであっても、新人は「賄い」から始まります。

まず、航海日数から献立を作成します。乗組員は20代から50代の方までいるので、米食/パン食、



魚料理/肉料理、味噌汁/スープと各人の希望を取られています。

次に予算を考慮

しながら仕込みをします。荒天航海が予想されるときは若干少なめ、カレーは人気が高いので若干多めとメリハリをつけると、無駄なく食材を消費できます。

そして調理です。荒天時はピッチング（縦揺れ）をしますので、立っているだけでも大変です。その状況で、一点を見つめて包丁を使うと吐き気を催します。2時間も吐き気と揺れと調理との格闘で、自分の分は不要になります。

操業時は、操業の合間に食事の支度をします。早朝から晩まで休みもなく業務を進めていきます。その他に、食料品積込、清水積込、配膳、ごみ捨て、夜食作りなど、業務は多様です。

賄いであろうと、機関士であろうと、自分の適性の中で精いっぱい本領を生かしたい。小さな成功体験を積重ねて、水産業の発展に繋がれば、水産業を担う人材として役割を果せます。水産大学校に感謝です！

## 一年経験して

有限会社大島水産種苗

生物生産学科60期卒 耕 田 慧 介



私は、水産大学校へ生物生産学科の後継者推薦の第一期生として入学しました。大学では水族防疫

学研究室で魚類の病気や病気に対する生体防除機能について学び、また卒業論文では、プロバイオティクスや免疫賦活物質に関する研究を行いました。その後、平成22年3月に卒業し、家業である種苗生産会社へ就職しました。

私の会社では、ヒラメとトラフグを独自で選抜育種した種苗から親魚養成し、採卵、種苗生産までを一貫しておこなっております。

卒業して仕事を始めた4月は、ヒラメの出荷が終わりに近づきトラフグの生産ピークをむかえていました。その時私は、仕事を覚えることで精一杯でしたが徐々に自分で仕事の流れを考え、限られた時間をうまく使い作業することを練習しました。その後は、仕事に優先順位をつけ、やらなければならない作業を優先的にやり、その作業の合間にできる作業をするといったように少ない時間を有効的に使うことを考え実践するよう努めました。他の業種でもそうかもしれませんが、私は生物に関して仕事をしていくなかでその日そのときで仕事が変わることを実感しました。日々、瞬時に変化する状況で、先ほど述べたような仕事の優先順位を考えることや限られた時間の有効的利用の大切さを感じました。

私は仕事を始めて、大学生活で学んだ魚類の専門的知識では、トラフグの寄生虫や病気などの問題が起きたときの判断や対処に役立っているし、一般教

養や自分の仕事に直接関係ない水産知識でも社会に出て多くの方々と話をする機会がふえましたが、そのような場でも大きく役立っていると実感しています。

現在、私は種苗生産技術から会社経営、人材育成といった様々なことを勉強し、考える日々であります。

## 水族館業界に就職して

海洋博覧会記念公園管理財団

平成21年水産学研究科水産技術管理理学専攻修了

古 賀 壮 太 郎

平成20年度に水産学研究科を修了し、現在水族館業界で働いています。水産という学問を志す学生の皆さんの中には、水族館という職種をかなりの人数が希望されているかと思います。そこで、簡単ではありますが職場としての水族館をご紹介しますと思います。

私の在籍している海獣課には、水産学部出身者のみならず動物系専門学校からも沢山の職員が集まっています。鯨類に関して学んでいる人は少数で、魚類、漁具、サンゴなど学生時代には違う分野を勉強しています。私もソナー等を使用した調査の中で、プランクトンや魚群が海洋環境でどのような営みを形成しているか研究しました。飼育動物もその一部を切り取り、皆さんに見ていただいているわけです。普段は、イルカショーを通して鯨類の行動を紹介していますが、練習船や調査船に乗って実際に見た生物や海に関する経験は、働く上での土台になっていると感じます。また、水族館では展示だけではなく調査研究も行われています。沖縄の沿岸まで来遊してくるザトウクジラに関するもの、飼育に関するものだと治療、繁殖、訓練など非常に多岐にわたります。私自身、鯨類について知りたいという思いを温め、この業界に飛び込みましたのでやりがいを感じる仕事の一つです。調査計画や報告書をまとめる際に、私の教科書となっているのは修士論文です。研究分野こそ違いますが、先生方から頂いたご助言、研究内容に関して議論した時間は財産となっています。さらに、今後は大学との共同研究で出会う学生の皆さんに対しても、私自身研究でお世話になった方々のような研究への理解や協力をしていきたいと思っています。

私は、学生時代に過ごしたサークル活動、実習、寮生活のどれもが非常に勉強になりました。過ごしているときは気付かないものですが、今まさに夢中になっているその瞬間を大切にして、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思っています。







# 水学園だより

独立行政法人水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 今年度の抱負

### 校長 山元 憲一



昨年度は「事業仕分け」で始まりました。結果は、皆様もご存知のように、水産大学校での特色ある教育とその実績を認められた判定がなされたと認識しております。これを受けた形で、今年度から始まった独立行政法人3期目に向けての5カ年計画もスムーズに策定できたものと考えております。

同時に、近年6カ年で最高の入試倍率を示していることから明らかなように、水産大学校の教育が若者に認められたと、喜ばしく受け止めているところです。就職難といわれておりましたが、ほぼ100%の就職率を達成し、その内75%以上を水産業およびその関連企業に就職させる目標も達成いたしております。

今年度は、実習教育センターおよび各学科2講座の体制を整えて、2年目を迎えました。4月からは、この体制に基づく海技士教育を強化・充実させる目的で、海洋生産学科に所属する「海洋生産運航学講座」と海洋機械工学科の「船用機関学講座」に、船舶で活躍していた者を採用すると同時に、練習船からの配置換えも行って、それぞれの講座に「一級海技士」を取得している教員4名以上を配置しました。また実習教育センターも、実習管理役に海洋生産管理学科教授として迎えた天鷹丸船長を実習管理役（航海担当）に、海洋機械工学科准教授として迎えた天鷹丸専任教員を実習管理役（機関担当）に配置し、すでに配置済みの練習船の前事務長

である係長を合わせて、練習船に習熟したスタッフで体制を整えました。現在、これらのスタッフと実験実習場長2名で、本校で行っている全ての実習を円滑に実施するよう努めているところです。合わせて今年度は、本校の特色である「実学教育」を更に充実したものとすることを目指して、全ての実習に関する「実習・教育マニュアル」を作成・整備し、検討しているところです。

今年秋には、JABEEプログラム認定校としての中間審査が予定されております。審査書類を7月末までに提出することになっており、これに向けての準備を行っています。今回は、特に「卒業研究」および「卒業論文」の科目に関する教育内容・方法などをより充実したものとなるよう検討しています。これらの科目は、卒業後社会人として活躍してゆく上での大学4年間の集大成となる教育を目指したものです。

現在、「多目的学生教育棟」建設が3年計画で、24年度完成予定で行われています。この施設は、主に海技実習をはじめとした心身の鍛練の場として活用してゆくこととなっています。この他、25、26年度には内水面増養殖に関する教育・実習の強化に向けて「小野実験実習場魚介類飼育施設改修工事」が、27年度からは3年計画で「天鷹丸」の代船建造が独立行政法人3期目の計画として認められています。今年秋からは、「耕洋丸」と教育内容を異にした特色ある練習船の建造に向けての検討に入る予定にしています。このように、教育施設もますます充実したものとなるように計画されています。

これからも、更に充実した教育体制を整え、教育効果を上げ、社会の要請に応え得る学生を育て、高い就職率を維持するだけでなく、学生が希望に添った充実した学生生活を送れるように努力してゆく所存です。

## 最近の話題

### 着任のご挨拶

#### 水産流通経営学科 講師 山元 里美

平成23年1月1日付けで水産流通経営学科水産基礎講座に専任講師として着任しました山元里美と申します。こちらに赴く以前は、津田塾大学女性研究者支援センターで特任講師として2年間勤務しておりました。私は日本女子大学大学院文学研究科英文学専攻（アメリカ研究）博士課程前期を修了後、

シカゴ大学大学院社会科学研究所 M.A.課程、イリノイ大学大学院アーバナ・シャンペーン校社会学研究科 Ph.D.課程を修了しました。また、日本女子大学文学部英文学科で専任助手、(株)インテージのパネルデータ分析部門で正社員として勤務していた経験もあります。「英語教員専修免許がある社会学の専門家」ということで、このたび本校で英語科目と社会学を教える機会をいただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

時がたつのは早いもので、水産大学校に着任して



から半年ほどとなりました。紺碧の空、ウォーターフロント・キャンパス、元気の良い水大生、美味しい魚介類、と日々の生活を満喫しております。平成23年度の前期は、英語科目を5コマ担当しました。英語に対して苦手意識の強い学生が多い

と聞いておりましたが、「TOEICのスコアを伸ばすにはどうすれば良いですか?」、「短期留学したいのですが、どうすれば良いですか?」、「リスニング力を高めるには、どうすれば良いですか?」、「英語の本を借りても良いですか?」と私の研究室を訪ねてきたり、授業終了後に英文の構造、英文法の細かな部分について質問してきいたり、英語を積極的に学ぼうとする姿勢が見られ、とても感心しました。

水大生が少しでも興味を持って英語を学べるようにと、米国海洋大気庁(National Oceanic and Atmospheric Administration)が発行している水産業に関する英語文献を素材にして『英語で学ぶ現代アメリカ水産業』という英語教材を作成しました。今年の9月末に大学教育出版より刊行されます。

後期は、英語科目に加え社会学も担当します。社会学では、さまざまな社会現象や社会問題を取り上げ、マクロレベルで起こる社会変動がミクロレベルの個人にどのような影響を与えるかを分析します。少しでも水大生の視野が広がるような授業になるように心掛けます。

何かと不慣れな点が多いかと存じますが、これまでの経験を活かし、水産業を担う人材の育成に誠心努力して参ります。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 支援航海と実学教育

海洋生産管理学科 講師 松本 浩文

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、我が国でも有数の水産が盛んな地域へ甚大な被害をもたらしました。そんな中、本校では発生から数日後には「震災支援チーム」を立ち上げ、4月7日には第一陣として海洋生産管理学科3年生56名を乗せた練習船耕洋丸が岩手県宮古港と釜石港向け出港しました。

今回の支援業務は主として「支援物資の運搬」、「入浴支援」、「食事提供」がありました。「支援物資の運搬」については自転車(50台)、灯油(ドラム缶20本)、運動靴・学生作業服(100着)、レトルトおでん(2,000食)等を下関で積載し、宮古水産高校や宮古・釜石の両市と漁協向けにお渡しする事ができました。また、物資の引き渡しについては、乗船学生と乗組員、そして自衛隊員が協力し作業を行うことができました。

次に釜石港での船内における「入浴支援」と「食事提供」ですが、1日で合計106名を避難所から耕洋丸へ招き入れ、船内4か所の風呂で入浴を提供す



ることができました。また、物資提供者からのお米を活用し、船内でカレーライス等を振る舞い、子供向けには甘口カレーを準備するなど学生と職員が一体となって協力し、そしてアイデアを出し合いながら当初の目的を遂行できました。

本校は、水産業を担う人材の育成を目的とし、実習等による実学教育の充実を掲げております。今回の乗船学生は宮古水産高校のバスで被害状況を目の当たりにし、釜石では被災者受け入れを経験することにより、あらためて津波の脅威を身近に感じ、被害の甚大さを身を以って感じたと思います。学生が主体性を持って被災者に接し、声を掛け、そして手を取り合う姿は、本航海のために検討を重ねた一人として感動するものがありました。また、この航海での経験は、組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な、基礎的な力を身に付けることができたと思います。

水産大学校では1年生を対象とした授業でも支援報告会を開催するなど、被災地の目線に立った実情を共有し、今後も中・長期的な支援を検討しております。昨今、情報化社会が進み人間関係の希薄化が叫ばれている中、創造性豊かで水産現場での問題解決能力を備えた人材を輩出できるよう、引き続き本校の特色を生かした取り組みを続けていきたいと思っております。

## 陸に上がったカッパ……?

海洋機械工学科 准教授 平野 尊之

陸上職員となって早や4か月が過ぎようとしています。陸上職の右も左も知らない私に何が出来るのだろうかと思いつつ、この4月より海洋機械工学科の方にお世話になっております。この3月まで私は練習船天鷹丸の次席一等機関士など約20年を船舶職員として過ごして参りました。練習船勤務時は職名である「ファーストエンジニア」と呼ばれておりましたが、現在ここでは「先生」とまだまだ私には似ても似つかない呼ばれ方に、戸惑いとなんだか背中のむず痒い思いをしている今日この



頃です。

今、私の一番の役目は、学生たちが学校の座学で学んだ理論と、練習船でこれから学ぶ、又は学んできた現場での実技をつなぐことだと思っております。私もこの水産大学校の卒業生であります。やはり教科書での言い回しや説明と現場で取り扱いの違いに戸惑った思い出もありますし、失敗も多々ありました。また逆に教科書どおりの作動や方法に感心した思い出もあります。授業中や会話の中にこのような経験談を織り交ぜ、少しでも学生たちの理解に役に立てばと思っっている次第です。卒業後は即戦力となる人材に育ててくれたら幸いです。

また、昨年より実習教育センターという新しい部署が立ち上げられました。この度その実習教育センター実習管理役（機関）という職もあわせて仰せつかっています。こちらは学校と練習船をつなぐのが役目かと思っております。時代や時、目的などにより多様に変化する学校からのニーズ、練習船からのニーズ、そして社会からのニーズ、それらに迅速に応えられるよう各所を調整していく難しい役目だと思っております。

昨年度、政府よりさらなる事業、教育の効率化を求められました。また本大学校のモットーである実学重視による教育をさらに充実させるためには何をどのようにすればよいか。その要求に応えるべく発足したのがこの実習教育センターです。創設されたばかりの部署であり仕事の内容も新しいことが多々あり手探りのことが多くあります。まだまだ不慣れなところは多々ありますが、陸に上がったカッパにならぬよう、皆の足手まといにはならぬよう頑張っ行ってきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

## 平成23年度新入生宿泊オリエンテーションの実施

食品科学科 助教 福田 翼

去る平成23年4月23日（土）および4月24日（日）、食品科学科新入生宿泊オリエンテーションを実施しました。新入生宿泊オリエンテーションは、食品科学科独自で実施しているものであり、本年度で8年目となります。食品科学科長、教員および食品科学科に在籍している上級生が参加し、宿泊を通じて食品科学科新入生とのコミュニケーションを図ることを目的としております。

本年度の新入生宿泊オリエンテーションでは、唐戸市場の見学を行いました。これは、これから水産食品分野を担う新入生に水産の最前線を肌で感じてもらうためです。多くの新入生が魚市場の見学が初めてであり、目前に広がる魚介類はもちろんの事、市場の活気を楽しんでおりました。

宿泊研修は、山口県山陽小野田市にあります『きらら交流館』にて実施しました。宿泊研修では、「アジのさばき方」を学ぶ調理実習を行いました。食品科学科長でもある芝教授の指導の下、アジの刺身を調理しました。多くの新入生が初めて魚をさば



調理実習と新入生が調理したアジ刺身



刺身試食と夕食風景

いたという事もあり、現場では大きな希望と幾許かの不安が渦巻いておりましたが、本学科の独自資格である水産食品士の資格取得を目指す上級生のサポートもあり、全員が無事に調理を終えました。初めてさばいたアジの刺身を食した際、様々な感想を持った様でしたが、その顔は皆一様に笑顔でありました。

また、本校本学科の卒業生でありますフジミツ株式会社の兼森史依氏に「社会で活躍する先輩から後輩に送る体験談～水産食品分野の最前線に立って～」という演題で講演を頂戴しました。講演では、同氏の現在における仕事内容はもちろんのこと、大学生活における心得や大学在籍時の体験談を拝聴しました。新入生にとっては今後の学生生活、将来のイメージが描けたことは非常に有意義であり、帰りのバスでの本講演内容の話で持ち切りでありました。

講演後は、『きらら交流館』にあります温泉で入浴後、各部屋で学生間の親睦を深めました。翌朝、ラジオ体操および軽いランニングを行い、全日程を終了致しました。

本宿泊オリエンテーションを通じて、教員と新入生間コミュニケーションを図る事はもちろんのこと、新入生の人柄や性格を知ることが出来ました。また、新入生同士でも繋がりが強くなっていった様に思います。今後、授業などを通じて、ご迷惑をおかけすることがあるかと存じます。その際には、何卒、ご指導・御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## ロシア・ソチのトゲウオ調査

生物生産学科 助教 高橋 洋

私が研究しているトゲウオは、冷たい水に棲む小魚で、北半球北部に広く分布しています。昨年よ



アゾフ海の釣り人。獲物は大きなハゼの仲間。

り、トゲウオの行動に関する研究で科研費（若手研究A）の交付を受け、各地で野外調査を実施してきました。今回、これまでなかなか手に入らなかったトゲウオの一種、“ウクライナトミヨ”を採集するために、ロシア・ソチへと赴きました。

ソチは黒海東岸に位置するロシア屈指の保養地で、2014年冬季オリンピックの開催都市としても知られています。五月晴れの日本を後に、モスクワ経由でソチへと向かいました。入国審査、乗り継ぎともにスムーズで、係員の愛想も良く（数年前のロシア旅行からは信じられないことです）、快適な空の旅でした。深夜にソチ空港に降り立ちましたが、意外にも肌寒いどころか、むっとした生暖かい空気に迎えられました。

翌朝、現地協力者であるソチ自然公園の研究者とともに、北部の調査地に向けて出発しました。これまでのロシア調査では、道無き道を四輪駆動車でガタガタ揺られながら移動するといったことが多かったのですが、今回は延々と続くアスファルトの道を、ベンツやレクサスといった高級車に追い越されながらの移動でした（車はいつもと同じくポンコツの四輪駆動車でしたが…）。

ソチは亜熱帯性気候ですが、カフカス山脈手前でいったん地中海性気候となり、山脈を越えるとステップ気候になります。北に向かえば少しは涼しくなるかと思っていたのですが、遮るものも何もない広大なステップで、高く昇った太陽にじりじりと照りつけられ、気温はうなぎ登り。トゲウオ採集は普通寒さに震えながら行うものですが、今回は汗をだらだらかきながらの調査となりました。

三日三晩、懸命の捜索にもかかわらず、残念ながら目的の魚は一匹も採集できませんでした。これまで以上に現地協力者と入念な打ち合わせを行い、十分に準備したつもりでしたが、現地環境悪化は予想以上で、カダヤシや中国メダカなどの外来種をひたすら採集する羽目になりました。現地協力者も、「2年前は、ここでたくさん採れたのに…」と悲しそうでした。

ソチへと戻る車中、後席で酒を飲んで酔いつぶれる現地協力者を尻目に、次の挑戦はいつになるかと思いを巡らしました。近年の急激な経済発展を背景

に、オリンピックを控えて近代化が加速するロシア・ソチでしたが、その陰で貴重な自然が急速に失われていくのを目の当たりにして、複雑な気持ちになった調査旅行でした。

## 着任ごあいさつ

耕洋丸 三等航海士 川井麻美

こんにちは！

今年度より無事に社会人の仲間入りを果たし、水産大学の練習船「耕洋丸」へ乗船することとなりました。

女性でありながら船乗りを目指す、ということから周囲の反対や特異な視線を受けることも多々ありました。残念なことに、まだ、「船に女なんて…」という考えを持つ方は大勢いらっしゃいます。しかし現在は嬉しいことに、乗組員の方々や友人に大変恵まれることができ、仕事も船上生活も有意義に過ごすことができ感謝しております。

4月の初航海では、急きょ東日本大震災の支援航海が決まりました。初めての航海当直、学生指導に加え震災支援の取り組みにと、右も左もわからない中で奔走する毎日でしたが、思い返してみるととても貴重な経験をさせていただいたと思います。実際に見た震災による被害の大きさ、乗船中に取り組んだ津波対策は忘れることはないでしょう。

私は高校生の時から「船乗りになりたい」と船舶の勉強を始めたわけですが、漠然とした目標がだんだんと現実味を帯びていく様は、自分の励みになりました。私は「船乗りになった」ので、また新たな目標を作り、実現させていきたいと思っています。

また、初めて下関を出港したときはとても緊張し、失敗もたくさんしました。それでも毎日こつこつと失敗と成功の経験を積み重ねていき、それを糧とし、より多くの後輩に伝え、少しでも船に興味をもってもらい、有意義に実習を過ごしてもらいたいと思います。

微力ではございますが、私のできる限り練習船「耕洋丸」での勤務に努めていきたいと思っています。まだまだ頼りない私ですが、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、みなさまのご健勝とご多幸を祈念し、ご挨拶申し上げます。



## 在校生の声

### 大学生になって

水産流通経営学科3年 藤本 健太

水産大学校に入学して2年が経過しました。入学したばかりの頃は大学の4年間は長いと考えていましたが今考えてみると本当にあつと言う間であり、気が付けば大学生生活も後半へ突入していました。

講義では流通経営学科の教員だけでなく他学科の教員も講義を行うため、経済や流通関連の講義とは違った気持ちで受けることができました。食品の衛生について日常生活では気にも留めないようなことであっても詳しく講義で教わることにより、理解を深めることができました。また、講義は全てを受講する必要が必ずしもないので、同じ学年、同じ学科であっても講義日程や空き時間が違う場合もあります。私は空いた時間で講義の予習や復習に使用し、他にもアルバイトやボランティアなどを行いました。アルバイトは高校時代では禁止されていたため行ってみましたが、改めてお金を稼ぐ難しさ、大変さを実感し学ぶことができたと思います。そしてボランティアではアルバイトとはまた違い、自分のために働くことが全てではないということも学びました。

大学生は時間に少し余裕があり、制限も少ないと思います。勉学はもちろん重要ですが、今だからこそできることを行って様々なことを吸収していくことも大切だと感じました。残り少ない大学生活ですが、そういった気持ちを更に生かして行きたいと思っています。

### 充実した大学生活を送る

海洋生産管理学科1年 市橋 健大

私は、水産大学校に航海士になるための勉強をしたいと思い入学しました。海と船が好きで将来はそれらを相手に仕事がしたいです。

海は状況が常に変化するため、そこで働くには集中力や忍耐力が欠かせないと感じています。心身を鍛え、また状況判断力を身に付け自分の可能性を広げられるような大学生活を送りたいと思っています。

高校では野球部に所属し、チームワークの楽しさを学びました。最後の大学生活である大学においても、将来海のプロフェッショナルとして働くためにチームプレイを続けたいと思っていました。水大にはカッター部があることを知り、大変興味を持ち入部しました。合宿等を通して集団生活も学び、毎日が楽しく充実しています。

大学の授業では、現在基礎的な教養科目を学んでいます。数学・物理・英語などを柱にして、2年次から始まる専門科目に繋げていきたいと思っています。私が特に興味を持つ専門科目は、航海学や運用

学であり船の位置の決定や運航方法を修得し、将来は外国航海ができる航海士になりたいと思っています。学業と部活動を通して多くのことを学び、海技実習や乗船実習においてリーダーシップを発揮できるように頑張ります。

### 初心に帰る

海洋機械工学科2年 伊東 賢太郎

時間の流れは早いもので、入学してから気付けば一年半が経とうとしています。私は、水大に一般ではなく推薦で入学しました。志望理由は、工学系に興味があった事や幼い時から船舶との関わりがあった事が挙げられます。しかし、その中でも一番の魅力として「船舶で世界を旅する」。これが、私の最大の志望理由でした。また同時に、「世界に通用する機関士になる!」。これが、私の目標にもなりました。

入学、入寮当時は、まだ右も左も分からない状態で期待と不安でいっぱいでしたが、それもいつしか慣れ、日々講義、部活動等から様々な事を吸収しながら毎日を過ごしてきました。

機械科は二年生から専門科目やレポート提出が多くなり、最近、休日以外のほとんどがレポートに追われる。そんなキャンパスライフを過ごし、疲れ始めた私は、将来の目標すら見失いかけていました。そんな時偶然、あるTVで豪華客船の特集が放送され、それを見た私は再び目標の再確認をすることが出来ました。私は、このタイミングで目標の再確認ができた事をととても嬉しく思います。なぜなら、それが私の勉学に対するバイタリティーとなり、やる気という大切なものを引き起こしてくれるからです。これから先、困難が訪れた時には題名にも述べましたが、初心に帰り、己を律して目標に向かって精進していく所存です。

### 洋上鮮度管理実習

食品科学科3年 杉本 礼央

私は今年の5月に、天鷹丸に乗り、約2週間の乗船実習を行いました。船に乗るまで「なぜ私たちは海洋機械工学科や海洋生産管理学科ではないのに、船に乗る必要があるのか」と疑問の気持ちでいっぱいでした。

私たちの乗船実習の目的は「洋上鮮度管理実習」であり、船上での漁獲物の水揚げ、魚の延髄刺殺、神経抜き、苦悶死させることにより、時間経過による鮮度変化を調べました。延髄刺殺神経抜きを行う目的は、延髄を介した運動の抑制、魚が暴れることによる体内のATP減少、体温の上昇を防ぐことです。これらは鮮度低下を早める結果になることが分かりました。私は延髄刺殺と神経抜きを原田先生の指導のもとにやらせて頂きました。実際の作業で

は、魚がとても暴れ、大変であったことを覚えています。

神経抜きの作業を体験できる大学は水産大学校だけであると原田先生が仰っていました。私は他の大学で出来ない体験が出来て水産大学校に来て本当に良かったと心から思いました。私たちの大学では他の大学では体験出来ないことが他にもたくさんあります。そのようなことを体験することは、就職活動の際にとっても有利になるはずですよ。

私は、乗船実習で鮮度低下を防ぐには漁獲してからすぐに活け締めすることが重要であると分かりました。

このことから、私は乗船実習が出来て本当に良かったと思います。

## 水産大学校に入学して

生物生産学科1年 東川 将基

私は子供のころからずっと海が好きだったので、海のことについて学べる大学に進学しようと考えており、全国の水産系の大学の中でも実践的なことを多く学べる水産大学校に魅力を感じたので、本校への入学を決めました。入学してから数カ月が過ぎ、心配だった一人暮らしにも慣れ、最近では釣りや素潜りなどを友人達と楽しんだり、休日は唐戸市場でアルバイトをするなど、私の地元東京ではできないような海や魚に囲まれた生活を満喫しています。初めは東京とのあまりの違いに驚きましたが、今では多くの時間を海や川で過ごしています。

また学業の面でも、本校は水産とかわりの深い専門的な授業があり、毎日楽しく学校に通っています。私は将来水産に関わる仕事に就きたいと思って

いるので、これからの四年間を有意義なものにするともに、いろいろなことを経験しながら楽しく過ごしたいです。

## 研究科に入学してから

水産学研究科1年 河津 慧

私は、今年の春に海洋生産管理学科を卒業し、水産学研究科に進学しました。私が研究している日本海西部における高度回遊性魚類（主にマグロ類）の資源について紹介いたします。

日本海西部では、クロマグロとコシナガマグロの二種類のマグロが主に漁獲されることが分かっています。しかし、特にクロマグロについては、国際的にも重要な魚でありながら産卵場や仔・幼魚に関する知見がほとんどなく、これから先クロマグロが正確に判別された上で統計や調査されることは極めて重要な意味を持っているといえます。また、コシナガマグロは最大でも1メートル前後の小型のマグロですが、クロマグロに非常によく似ていることからクロマグロと混同して扱われることがあります。コシナガマグロとクロマグロを正確に判別して統計を行うことで、両者の明確な違いを解明することができればマグロ類の資源管理に大きく貢献できると思っています。

研究科での勉強や研究は忙しく、フィールド調査などでより多くの知見を増やすとともに、データ等の解析のためにパソコンの前に座っている時間も多いです。しかし、たまには気分転換で所属していた男子端艇（カッター）部に顔を出してオールを漕いでみたり、友人や後輩と語りながら、有意義な学生生活を送っています。

## クラブ紹介

### 男子端艇(カッター)部

男子端艇（カッター）部主将  
海洋機械工学科3年 欽崎 誠

私は水産大学校ならではのマリンスポーツがしたい、という思いからカッター部に入りました。カッターは長さ9m、重量約1.5トンのボートで昔は軍艦に搭載され訓練目的や交通艇として使用されておりました。今でも水産・商船などの教育機関で訓練や部活動に使用され、大学生の競技大会では往復2000mの距離を競います。

12人の漕ぎ手と艇指揮・艇長を含む14名で構成されるクルー達は、楽しいことも苦しいことも共に分かち合う同志で、良きライバルでもあります。はじめの頃は、ただ重たいオールを握り練習するだけで精一杯でしたが、次第に仲間と支え合いながら最後まで漕ぎ通すという強い思いが湧き上がり、積極的に練習に取り組んできました。このクルーと力強く海面を漕ぎ進んだ時に浴びる風は格別です。

カッター部は漕ぐだけでなく、帆を張って風の力を受けて水上を航行する帆走練習も行います。その

技術を活かし夏には巡航を行い、より実践的な航海のスキルを磨くと同時に普段の練習だけでは味わえない楽しさや、海上での風や波が航行にどれだけ影響するのかを肌で実感します。

私はカッターを通じてたくさんの経験とかけがえない友を得ることが出来たと胸を張って言えます。



# 学生部だより

## 平成22年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 前田和幸

本校では学内に「就職対策検討委員会」を設置して学生の就職支援を行っています。委員会は、委員長(学生部長)と各学科長および1年生～3年生のクラス担当教員からなる委員で構成され、事務局として学生課がこれを補佐しています。

主な活動は、(1)3年生を対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施。(2)就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催。(3)就職手引き書「大学生のための就職応援ブック」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導。(4)各学科の就職担当者および学生部職員が、水産関連企業・団体等を訪問し、本校および本校学生の紹介を行うとともに

に、訪問企業等の人事計画や採用情報の把握。(5)毎年1月末に開催している合同企業説明会等です。

特に、今年の1月29日(土)に開催された、本科3年生と専攻科進学予定の4年生および研究科1年生を対象とした合同企業説明会には、近年の不況にもかかわらず、本校からの採用実績のある企業73社の参加があり、企業側、学生側から熱心な説明や質問が行われ、参加した学生からも好評を得ました。

このような活動の結果、3月31日現在での平成22年度卒業・修了者240名(本科169名、専攻科57名、研究科14名)の就職率は96.4%で、このうち水産関連分野に79.6%が就職しました。平成22年度は不況の影響を受け、大変厳しい就職状況が予想されたにもかかわらず、例年並みの高い就職率を維持することができました。

なお、本科、専攻科、研究科における進路状況および進学・就職内定先は別表の通りです。

## 平成22年度卒業・修了者の進路状況

平成23年3月31日現在

本 科 専 攻 科 研 究 科	卒 業 者 数	進 学 関 係						水 産 関 連 進 学 率	就 職										試 験 準 備	進 路 未 定 者	水産関連就職率		(3) 就 職 率			
		水産関連分野					計		水 産 関 連 分 野												(1) 就 職 希 望 者	(2) 就 職 内 定 者				
		研 究 科	専 攻 科	研 究 生	大 学 院	そ の 他			計	国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	各 種 団 体	漁 業 ・ 養 殖	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	資 機 材 供 給 等	計						そ の 他	計 ( 内 定 者 )	
水産情報経営学科	16					0	2	2	0.0%			2		1	6		3	12	1	13		1	85.7%	92.3%	92.9%	
海洋生産管理学科	45	3	23	1		27		27	100.0%		1	1	2		4	2	5	15	2	17		1	83.3%	88.2%	94.4%	
海洋機械工学科	39	3	25			28		28	100.0%								7	7	4	11			63.6%	63.6%	100.0%	
食品科学科	37	1		3		4	2	6	66.7%		1				13	8	1	1	24	5	29		2	77.4%	82.8%	93.5%
生物生産学科	32	3		2		5	3	8	62.5%			2	1	6	6		3	18	6	24			75.0%	75.0%	100.0%	
計	169	10	48	6		64	7	71	90.1%		2	5	3	20	24	3	19	76	18	94		4	77.6%	80.9%	95.9%	
専攻科船舶運航課程	29					0		0	0.0%	1		8	2		7	3	3	24	5	29			82.8%	82.8%	100.0%	
専攻科船用機関課程	28					0		0	0.0%	2		3	1		8	1	5	20	8	28			71.4%	71.4%	100.0%	
計	57					0		0	0.0%	3		11	3		15	4	8	44	13	57			77.2%	77.2%	100.0%	
研 究 科	14					1	1	1	100.0%		1				4	1	1	2	9	2	11		2	69.2%	81.8%	84.6%
総 合 計	240	10	48	6	1	65	7	72	90.3%	3	3	16	6	24	40	8	29	129	33	162		6	76.8%	79.6%	96.4%	

注：(1)(水産関連)÷(就職希望者) (2)(水産関連)÷(就職内定者) (3)(内定者)÷(就職希望者)

### 【分類内訳】

#### 水産関連

- 各 種 団 体：水産に関係する団体(漁業、流通、船舶等関係団体)
- 漁 業・養 殖 業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者等
- 水 産 加 工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者
- 水 産 流 通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者
- 海洋水産・調査開発等：海洋水産関連の調査会社
- 資 機 材 供 給 等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者等
- そ の 他：水産業関連以外(公務員・団体・企業)

平成22年度卒業生進学・就職状況一覧表

平成23年3月31日現在

<p>◎進学(大学院等)</p> <p>鹿児島大学大学院 信州大学大学院 水産大学校研究科 水産大学校専攻科 筑波大学大学院 徳島大学大学院 鳴門教育大学大学院 広島大学大学院 山口大学大学院 九州工業大学 日本福祉教育専門学校</p> <p>◎就職(官公庁)</p> <p>青森県 大阪府警 大牟田市 鹿児島県警 島根県大田市 水産庁 東京消防庁 兵庫県 福岡県警</p> <p>◎水産関係等各種団体</p> <p>愛媛県漁業協同組合 愛媛県漁連 高知県漁業共済組合 水産総合研究センター 水産大学校 日本海事検定協会 日本小型船舶検査機構 日本船員福利雇用促進センター 日本油科検定協会 山口県漁業共済組合</p> <p>◎民間企業</p> <p>CACマルハニチロシステムズ JA下関 mic21 NTT WE マリン</p>	<p>アース環境サービス あきんどスシロー 飯野海運 イイノガストランスポート イコース 石川中央魚市場 一番食品 岩井製菓 大阪スバル 大島造船所 大津屋 尾道造船 海洋興業 科学資料研究所 角上魚類(株) カネダ 神畑養魚 川崎汽船 川崎近海汽船 神田通信機 関門海 キスコフーズ 九州商船 九州ベストフーズ 共栄タンカー 興漁水産 くらコーポレーション クラレイ グローバルオーシャンディベロップメント 幸福の科学 神戸発動機 コープ食品 コスモライン 西海食品 幸陽船渠 サマユー 自営業(漁業) 自営業(養殖業)</p>	<p>シマノ シモセン ジャパンファーム 商船三井 新日本石油タンカー ゼニライトブイ ゼンショー 第一中央汽船 大黒天物産(株) ダイナム 太平電業 大洋イーアンドエフ 大洋日本汽船 タックルベリー チムニー 中央魚類 恒栄商事 鶴見製作所 洞海マリンシステムズ 東栄リーファライン トウショク 東都水産 トゥルーワールドフーズ 特機システム電機 西島製作所 内海造船 名古屋海産市場 名古屋製酪 西日本海運 西日本ニチモウ 日新興業 日東製網 日本アクセス 日本海洋事業 日本クッカーリー 日本クラウンコルク 日本水産 日本ゼネラルフード</p>	<p>日本マリン ニューコ・ワン ノースイ ハイドロシステム開発 はごろもフーズ 美須賀海運 日正汽船 日建工学 広島水産 深田サルベージ建設 福一漁業 福岡中央魚市場 フジミツ プライムデリカ 松浦水産 丸寿海産 三井倉庫九州 三井造船マシナリー・サービス 南予ビージョイ 武蔵野フーズ 明治海運 名門太洋フェリー 山九 山九水産 山口銀行 山崎製パン ヤマサ脇口水産 山梨缶詰 ヤマミ醸造 やまや ヤンマーエンジニアリング 横浜冷凍 若宮貴船</p> <p style="text-align: right;">アイウエオ順</p>
--	---	---	--

平成23年度入試状況

本校の平成23年度入試状況をお知らせします。

推薦・一般入試の志願者総数は832名で、昨年度より16名増加しました。昨年11月に実施された推薦入試には、全学科で157名の応募がありました。

また、今年2月に実施された一般入試には全学科で675名の応募がありました。一般入試の学科別応募状況は、水産流通経営学科36名(募集人員12名に対する倍率3.0倍)、海洋生産管理学科97名(募集人員23名に対する倍率4.2倍)、海洋機械工学科97名(募集人員25名に対する倍率3.9倍)、食品科学科156名(募集人員27名に対する倍率5.8倍)、生物生産学科289名(募集人員18名に対する

倍率16.1倍)でした。

一般入試の過去6年間の推移は、18年度634名、19年度636名、20年度453名、21年度567名、22年度653名、23年度675名でした。平成20年度は大幅な減少が認められましたが、今年度は過去6年間では最大の数字になりました。これは、高校訪問、進学ガイダンスやインターネットを用いた情報提供など広報活動の強化を行った結果であると推察しています。今後も広報のあり方、入試制度の見直しなど、社会のニーズに沿って、本校の特色と個性豊かな教育方針を全面に打ち出し、魅力ある大学校となるよう一層努力する所存です。